

市民活動総合センター 令和3年度事業報告資料

- ・ 事業報告パワーポイントスライド一覧
- ・ 資料4-1：京都市市民活動総合センター事業報告（令和3年度）
- ・ 資料4-2：令和2年度評価における指摘事項に対する令和3年度事業実施状況
- ・ 資料4-3：京都市市民活動総合センター 令和元年度～令和3年度統計実績
- ・ 資料4-4：市縁堂 2021 実施報告書
- ・ 資料4-5：令和3年度京都市市民活動総合センター指定管理料に関する収支決算書

<参考>

- ・ hotpot74 号
- ・ hotpot75 号
- ・ NPO 法人等コンサルティング Book(運営編)
- ・ 「しみセン “つながる” ネット」 チラシ

京都市市民活動総合センター事業報告書（令和3年度）

令和4年5月31日

指定管理者名：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター

代 表 者 名： 理事長 中村 正

1. 令和3年度(2021年度)の事業報告

市民活動総合センター指定管理第4期3年目においても、令和2年度に発生した新型コロナウイルス感染症の影響が続いた。「緊急事態宣言」での臨時休館や「まん延防止措置」対策として開館時間短縮等での運営を余儀なくされる中で、期首に掲げた運営方針(7項目)をもとに、コロナ対策を講じながら各6分野事業の実施目的のもと取り組んだ。

【運営方針】

- (1) 公平・平等・公正を基調とした運営
- (2) 「公設市民営」の推進
- (3) 施設活用の向上及び市民活動パブリシティの強化
- (4) 社会関係資本の再構築と受信力の向上
- (5) 災害ボランティアセンター及び他機関連携の推進
- (6) G(ガバナンス)・C(コンプライアンス)・D(ディスクロージャー)の推進
- (7) 第三者評価・支援機関の設置と提言

【各事業分野】

1. 情報収集・提供事業
2. 相談事業
3. 育成事業
4. 連携・交流事業
5. 施設管理
6. 京都市災害ボランティアセンター運営事業

<事業分野別実施事項>

1. 情報収集・提供事業

【目的】NPO・市民活動団体の活動促進・参加促進に繋がる情報を発信する。

- ①情報コーナーの有効利用を推進する。
- ②ホームページ・情報共有ポータルサイト・SNS等での情報発信量を拡充する。
- ③hotpot/チラシ等の配架先を更に拡充する。

2. 相談事業

【目的】市民活動の多様な相談内容に、様々な手段(方法)を講じて対応し、幅広く市民個人及び団体の活動促進に繋がる総合相談窓口として機能を拡充する。

- ①オンライン相談の充実をはかる。
- ②多岐に渡る相談対応の記録・経験を生かした情報冊子を作成する。
- ③相談対応職員のスキルアップを実施する。
- ④専門家相談会での実施運営方法の改善を推進する。

3. 育成事業

【目的】「担い手」と「理解者・支援者」の育成において2本柱の事業展開を推進する。

- ①無関心層・潜在的関心層を対象とした『市民活動支援公開講座』を充実させる。
- ②各種講座の運営方法としてオンライン講座を拡充する。
- ③スモールオフィス入居団体への課題解決支援を促進する。

4. 連携・交流事業

【目的】多様なセクターとの連携による各種事業展開の拡充をはかる。

- ①「学生」・「企業」・「地域団体」との連携・協働を重視した施策展開を推進する。
- ②With コロナ社会での「市縁堂」の運営方法の改善を進める。
- ③全いきいき市民活動センターとの事業運営協力や協働企画の実施を促進する。
- ④ボランティア・コーディネートにおける実施方法(with コロナ禍)を改革する。

5. 施設管理

【目的】利用者にとっての利便性の高いセンター機能の充実とサービス提供を推進する。

- ①新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、施設運営を充実させる。
- ②利用機器(PC・印刷機等)の保守・管理を徹底し、利用満足度を高める。
- ③館内設置機器の維持・修繕に努め、利用者の快適な作業環境の提供を推進する。

6. 京都市災害ボランティアセンターの運営

【目的】防災・減災を主軸とした「災害に強いまちづくり活動」を推進する。

- ①共同運営機関との連携を密にし、有事の際での迅速な連携と活動推進をはかる。
- ②全国での災害発生時には共同運営機関と協議し、積極的に被災地支援活動を推進する。
- ③各区災害ボランティアセンターが実施する防災訓練へ積極的に参加協力する。
- ④市災害ボランティアセンター主催・共催講習会への運営協力を推進する。
- ⑤情報提供におけるSNS・ウェブ系ツールの共同開発・運用を促進する。

次頁より各実施事業詳細を分野別に記載する。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）

1. 情報収集・提供（運用・管理）

目的

NPO・市民活動団体の活動促進・参加促進に繋がる情報を発信する。

実施概要

①情報コーナーの有効利用を推進する。

◆活用推進施策として、会議等(対面及びオンライン)利用の促進にて以下の内容を実施した。

・会議利用における利用基準を設け、各種機材(音響機器等)を拡充した。

・オンライン利用に際して職員によるサポート(運用指導)を実施した。

・前年度下半期(10月)から実施している利用頻度(オンライン活用度)を調査した。

利用件数・参加者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
モニター前ルーム利用件数	件	3	0	1	4	3	1	3	4	2	1	3	3	28
オンライン参加者数	人	13	0	1	54	33	40	67	38	1	5	11	28	291

◆スペース活用として、以下の2団体にて活動を実施した。

・7/5～11:「お客様がいらっしゃいました」生理用品無料配布の案内活動

・3/18～31:「京ことばの会」団体活動紹介(モニター放映とパネル掲示)







「お客様がいらっしゃいました」

「京ことばの会」

◆11/23開催「市民公開講座」の開催前1週間の期間には、講演内容と関連性がある映画製作機材の陳列や貴重な映画のモニター上映を実施した。



②ホームページ・情報共有ポータルサイト・SNS等での情報発信量を拡充する。

◆バナーにて「しみセンつながるネット」を掲載した。





◆リンクを貼り、情報共有ポータルサイトのFacebook投稿記事を掲載し、拡散を図った。

◆前年度対比でホームページアクセス数は102.1%Facebookリーチ数も102.47%と向上した。

各件数		2021年度 上期合計	2020年度 上期合計	2021年度 下期合計	2020年度 下期合計	2021年度 年間合計	2020年度 年間合計
HP アクセス数	件	69,720	65,663	62,889	64,175	132,609	129,838
Facebook リーチ数	件	19,646	20,324	18,373	16,706	38,019	37,030

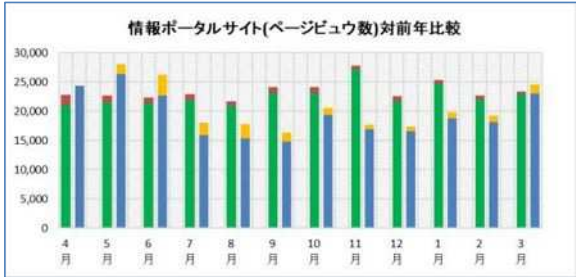
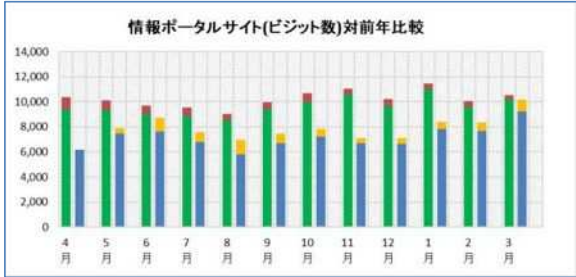
成果

①今年度モニター前スペースの会議利用で28件の利用数、291名の参加を得た。オンライン会議ではオンライン上の参加者数が数十人になるケースもあり、コロナ禍において、団体の活動が効果的に行われるための有効なサポートとなっている。

②コロナ禍ではWebによる情報収集が主で、アクセス/リーチ数は共に昨年度より約2%増加した。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名(分類)		1. 情報収集・提供 (各種媒体による発信)																																																																																
目的	NPO・市民活動団体の活動促進・参加促進に繋がる情報を発信する。																																																																																	
実施概要	◆情報共有ポータルサイトへのアクセスが大きく増加した。 前年度対比において、ページビュー数は113.0%、ビジット数は130.8%と大きく伸ばした。																																																																																	
	情報ポータルサイト(ページビュー数)対前年比較  情報ポータルサイト(ビジット数)対前年比較  2021年度一般 2021年度コロナほっぼ 2020年度一般 2020年度コロナほっぼ <table><tr><th></th><th colspan="2">情報ポータル(ビュー数)</th><th colspan="2">情報ポータル(ビジット数)</th></tr><tr><th></th><th>2021</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2020</th></tr><tr><td>4月</td><td>22,838</td><td>24,302</td><td>10,368</td><td>6,194</td></tr><tr><td>5月</td><td>22,718</td><td>28,051</td><td>10,111</td><td>7,903</td></tr><tr><td>6月</td><td>22,348</td><td>26,239</td><td>9,701</td><td>8,721</td></tr><tr><td>7月</td><td>22,919</td><td>17,965</td><td>9,562</td><td>7,557</td></tr><tr><td>8月</td><td>21,682</td><td>17,769</td><td>9,044</td><td>6,956</td></tr><tr><td>9月</td><td>24,148</td><td>16,334</td><td>9,983</td><td>7,468</td></tr><tr><td>10月</td><td>24,158</td><td>20,572</td><td>10,707</td><td>7,857</td></tr><tr><td>11月</td><td>27,752</td><td>17,731</td><td>11,052</td><td>7,131</td></tr><tr><td>12月</td><td>22,581</td><td>17,377</td><td>10,209</td><td>7,133</td></tr><tr><td>1月</td><td>25,326</td><td>19,790</td><td>11,444</td><td>8,408</td></tr><tr><td>2月</td><td>22,651</td><td>19,269</td><td>10,059</td><td>8,362</td></tr><tr><td>3月</td><td>23,338</td><td>24,554</td><td>10,530</td><td>10,158</td></tr><tr><td>計</td><td>282,459</td><td>249,953</td><td>122,770</td><td>93,848</td></tr><tr><td>対前年</td><td>113.0%</td><td>←対前年比</td><td>130.8%</td><td>←対前年比</td></tr></table>				情報ポータル(ビュー数)		情報ポータル(ビジット数)			2021	2020	2021	2020	4月	22,838	24,302	10,368	6,194	5月	22,718	28,051	10,111	7,903	6月	22,348	26,239	9,701	8,721	7月	22,919	17,965	9,562	7,557	8月	21,682	17,769	9,044	6,956	9月	24,148	16,334	9,983	7,468	10月	24,158	20,572	10,707	7,857	11月	27,752	17,731	11,052	7,131	12月	22,581	17,377	10,209	7,133	1月	25,326	19,790	11,444	8,408	2月	22,651	19,269	10,059	8,362	3月	23,338	24,554	10,530	10,158	計	282,459	249,953	122,770	93,848	対前年	113.0%	←対前年比	130.8%
	情報ポータル(ビュー数)		情報ポータル(ビジット数)																																																																															
	2021	2020	2021	2020																																																																														
4月	22,838	24,302	10,368	6,194																																																																														
5月	22,718	28,051	10,111	7,903																																																																														
6月	22,348	26,239	9,701	8,721																																																																														
7月	22,919	17,965	9,562	7,557																																																																														
8月	21,682	17,769	9,044	6,956																																																																														
9月	24,148	16,334	9,983	7,468																																																																														
10月	24,158	20,572	10,707	7,857																																																																														
11月	27,752	17,731	11,052	7,131																																																																														
12月	22,581	17,377	10,209	7,133																																																																														
1月	25,326	19,790	11,444	8,408																																																																														
2月	22,651	19,269	10,059	8,362																																																																														
3月	23,338	24,554	10,530	10,158																																																																														
計	282,459	249,953	122,770	93,848																																																																														
対前年	113.0%	←対前年比	130.8%	←対前年比																																																																														
成果	◆これまでリーチできていない層へ情報を届ける試みとして、1月公開講座の広報において、Facebookに講座案内の有料広告を掲載した。																																																																																	
	③hotpot/チラシ等の配架先を更に拡充する。 ◆配架状況の確認と今後の効果的な配布を検討するために、既存配架先にアンケート調査を実施した。 ◆配架専用設備(BOX型)の設置準備を進めていたが年度内には難しく、次年度に持ち越しとした。 ◆年2回(10月・3月)以下の内容でhotpotを各10,000部発行した。 ・第74号(10月発行)「ニュー・ノーマル社会をしなやかに迎えよう」 ・第75号(3月発行)「地・結・継・祭」地域の取組、それぞれの継承																																																																																	
																																																																																		
	第74号	第75号																																																																																
成果	①情報ポータルサイトのページビュー数では4～6月及び3月は前年度同月の数を下回っていたが、その他の月は前年度の数大きく上回っており、ビジット数は毎月の前年度数を大きく上回った。なお、コロナ関係の情報(コロナほっぼ)へのアクセス数は、前年度と比べて増加傾向にはない。 ・有料広告では、1/12から8日間、公開講座(1/29開催)参加者促進として¥5,000にて掲載した。 結果：投稿エンゲージメント数447件、有料広告による講座参加者：2名																																																																																	

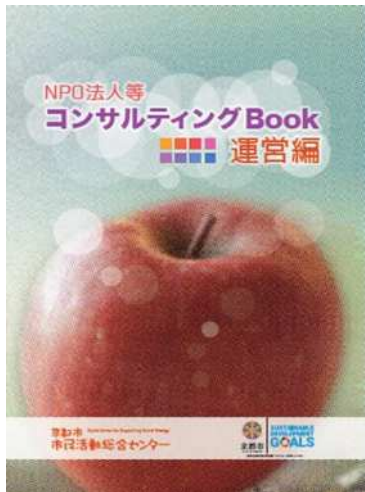
2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	2. 相談（一般相談・認証/認定相談）
目的	市民活動の多様な相談内容に、様々な手段(方法)を講じて対応し、幅広く市民個人及び団体の活動促進に繋がる総合相談窓口として機能を拡充する。
実施概要	①オンライン相談の充実をはかる。 ◆コロナ禍における対面相談ができない状況の中で、メール/電話以外の手段として、オンライン（Zoom等）での活用を促し、相談に応じた。 ◆オンライン相談実施件数記録を取り、年間で25件（一般16件、認証認定9件）の相談に応じた。 【オンライン対応件数加算前年度月別比較グラフ】 一般相談対応件数(オンライン数加算表記)前年度比較 【全体件数】 前年度対比：91.7%(396件/432件) 〈電話・メール・オンライン〉 前年度対比：96.6%(259件/268件) 〈来館〉 前年度対比：83.5%(137件/164件) 認証認定相談対応件数(オンライン数加算表記)前年度比較 【全体件数】 前年度対比：84.4%(636件/754件) 〈電話・メール・オンライン〉 前年度対比：88.4%(413件/467件) 〈来館〉 前年度対比：77.7%(223件/287件) ◆相談全体での対応総数→2021年度1,032件に対し、2020年度1,186件で前年度対比は87%だった。 ◆5月休館期間中での電話・メール等での問合せが、前年度対比で約半分と大きく減少した。 なお、同月にはオンラインでの対応（一般・認証認定共に）が最も多くあった。 ◆認証認定分野での相談内容カテゴリー別前年度比較 【2021年度】①. 役員の資格・責任・権限等 ②. NPO法人設立手続き ③. 手続き窓口照会 【2020年度】①. NPO法人設立手続き ②. 役員の資格・責任・権限等 ③. 総会 前年度対比カテゴリーで多い順が、「役員の資格・責任・権限等」と「設立手続き」の順位が入替り、「手続き窓口紹介」が増加した。
成果	①前年度同様に緊急事態宣言により、5月と9月が全日休館(昨年度5月は7日間、9月は29日間が開館)により、上半期での開館日数は同期間(上半期)前年対比では75%の稼働率である。なお、上半期での一般相談件数は前年同期間対比で105%、認証認定相談件数は95%と稼働日数に比べると対応件数は増やしている。増加要因はオンライン相談の新規実施や電話/メール相談の件数増加にある。 ・認証認定相談でのカテゴリーの変化は、三番目の順位で昨年度「総会」が今年度「手続き窓口照会」に替わった点で長引くコロナ禍で税務や労務、登記の手続き先についての確認も含めた相談が多くなったことによる。なお、昨年度三番目「総会」については、コロナ禍での総会の仕方についての問合せが多かったことによる。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	2. 相談（コンサルティング冊子作成・相談対応スキルアップ）
目的	市民活動の多様な相談内容に、様々な手段(方法)を講じて対応し、幅広く市民個人及び団体の活動促進に繋がる総合相談窓口として機能を拡充する。
実施概要	②多岐に渡る相談対応の記録・経験を活かした情報冊子を作成する。 ◆前年度発行「NPO 法人コンサルティング Book(設立編)」に続く「NPO 法人等コンサルティング Book(運営編)」を3月下旬に発行・配布した。 ◆同 Book 記載内容としては、組織運営における以下の点を Q & A 形式にて掲載した。 - 第1章：総会・理事会の運営について - 第2章：組織運営における役員の役割等について - 第3章：活動資金(寄付・助成金等)の獲得について ◆「ファンドレイジングにおける寄付の価値」について、河合将生氏(NPO 組織基盤強化コンサルタント/office musubime 代表)によるコラムを掲載した。    ③相談対応職員のスキルアップを実施する。 ◆職員勉強会として、相談事例をもとに毎月の定例事務局会議およびケース検討会内で相談内容の共有と対処(回答事項)について学習した。 ◆京都市地域自治推進室相談担当者としみセン職員の定例会「認証勉強会」を通じて、認証にかかわる知識や情報交換を行った。
成果	②今年度は団体の組織運営における大切な要素である「会議体運営」・「役員の役割等」・「寄付・助成金獲得」での事例を取り上げて、NPO 法人等コンサルティング Book「運営編」を、1,500 部発行した。うち、1,200 部は所轄庁(市・区役所)の相談窓口や登録団体に今後の団体運営における参考書となることを願い配布した。後日、団体より組織内の勉強会にも活用したい旨の連絡もあった。 ・本書の中には、市民活動総合センターが有する主な助成金提供先の情報を一覧にしたページを構成しており、団体にとって有益な情報冊子となっている。 ③京都市 NPO 法人相談窓口担当者との情報交換「認証勉強会」では、事後に職員へトピックの共有をおこない、京都市相談窓口と市民活動総合センターでの相談回答に相違がないように徹底をはかり、相談対応での正確な回答を提供している。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）		2．相談（専門家相談会）											
目的	市民活動の多様な相談内容に、様々な手段(方法)を講じて対応し、幅広く市民個人及び団体の活動促進に繋がる総合相談窓口として機能を拡充する。												
実施概要	④専門家相談会での実施運営方法の改善を推進する。												
	◆コロナ禍での状況下、オンライン相談を実施したが、年間3件(会計分野)の結果であった。 オンライン相談では特に会計分野に関して、対応上(web上)での細部確認が難しく相談がしにくいという課題があった。次年度に向けて再度課題として取り組むこととなった。												
	◆下半期から個別相談(電話/メール・来館)の中で、各職員が意識して専門家相談会への参加を促したが、前年度対比として、会計分野が54.5%、テーマ別分野においては「労務」2件(下期にて)のみと前年度テーマ別総数11件に対して18%と減少した。 対面での相談が難しい中でオンライン方法は相談者側での活用が難しいことも減少要因の1つでもあると思われる。												
	○専門家相談会(単位:団体)												
	認証	会計（固定枠）	日程	4/15	6/3	6/17	10/14	12/9	2/3	2/17	合計		
			目標数	2	2	2	2	2	2	2	14		
			参加数	1	0	0	1	0	0	0	2		
	(内オンライン1団体)												
	認証	会計（随時枠）	日程	11/10	3/30						合計		
			目標数	1	1	1	1	1	1	1	1	8	
			参加数	2	1							3	
	(全オンライン)												
	認定	会計（固定枠）	日程	5/6	5/20	7/1	7/15	9/16	11/11	1/13	3/3	3/17	合計
			目標数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	18
			参加数	中止	1	0	0	2	1	1	1	1	7
認定	労務（随時枠）	日程	10/2	3/17							合計		
		目標数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	
		参加数	1	1								2	
認定	登記（随時枠）	日程									合計		
		目標数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	
		参加数										0	
認定	広報（随時枠）	日程									合計		
		目標数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	8	
		参加数										0	
成果	【設定枠と参加実績】												
	専門家相談会		2021 年度		2020 年度		前年比較						
			設定枠	対応数	設定枠	対応数	件数	前年比					
	会計（認証）		22 枠	5 件	22 枠	14 件	-9	35.7%					
	会計（認定）		18 枠	7 件	18 枠	8 件	-1	87.5%					
	テーマ別(労務)		8 枠	2 件	8 枠	8 件	-6	25.0%					
	〃（登記）		8 枠	0 件	4 枠	0 件	0	0.0%					
	〃（広報）		8 枠	0 件	8 枠	3 件	-3	0.0%					
	合計数		64 枠	14 件	60 枠	33 件	-19	42.4%					
	◆全体でも前年度対比で42.4%と半数を下回る結果となった。												
◆相談数減少の理由としては、コロナ禍2年目にあり利用層と想定できる団体が現場対応に迫られ、こうした相談機会を利用する状況になりにくかったのではないかと推測している。													
◆コロナ禍の対応としてオンライン開催を促したが、会計(随時)1回、(認定固定)2回の計3回(4名)のみであった。会計分野では相談時の資料を見ながらの相談、理解などに難しさが生じていると思われる。													
◆テーマ別分野(3項目)は全て随時枠で設定したが、登記・広報については全く希望者がなく労務のみ下期後半に2回(2名)の実施となった。													

2. 事業報告

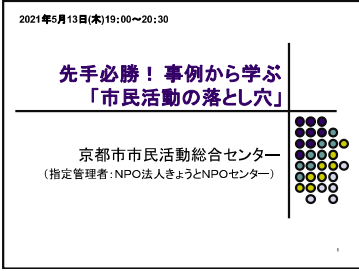
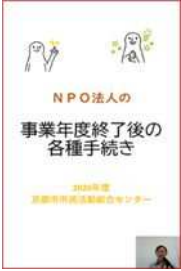
京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	3. 育成（公開講座）
目的	「担い手」と「理解者・支援者」の育成において、2本柱の事業展開を推進する。
実施概要	①無関心層・潜在的関心層を対象とした『市民活動支援公開講座』を充実させる。 ◆「公開講座(クリスマス・チャリティー・コンサート含)」を年4回開催した。なお、新型コロナウイルスの影響により、4回全て下期開催となった。 【開催日】2021年11月23日(祝) 【タイトル】「聞いて、観て、触れて、『映画のまち 京都』を楽しむ」 【講師】太田米男氏 (京都映画芸術文化研究所所長) 【参加者】40名(来場型) 【寄 付】5,400円 【開催日】2021年12月25日(土) 【タイトル】市民活動支援クリスマス・チャリティー・コンサート 【演奏】京都プラスバンド 【参加者】100名(来場型) 【寄 付】85,000円 【開催日】2022年1月29日(土) 【タイトル】「動物園では聞けない動物のはなし」 【講師】坂本英房氏(京都市動物園園長) 【参加者】139名(ハイブリット型) 【寄 付】17,000円 【開催日】2022年3月23日(水) 【タイトル】「つながり・ひろがる、かえるヨノナカ」 学生団体と地域企業の対談 【登壇者】(学生)お客様がいらっしゃいました (学生)静原応援 (企業)南大機シル印刷 (企業)市達山 (コーディネーター) 萩原靖氏(きょうとNPOセンター副理事長) 【参加者】20名(オンライン型) 【寄 付】50,000円(クラウドファンディング)
成果	① 全4回開催にて合計299名の無関心層・潜在的関心層に対して、市民活動にふれる機会を提供することができた。 ・年度初め1回目を9月に予定していたが、緊急事態宣言により、11月に延期した。講演者側より直接お話をしたい旨の希望があり、コロナが落ち着くまで待って来場型で開催となった。 ・クリスマス・チャリティー・コンサートもコロナ感染症拡大防止対策を充分に行い、来場型で実施した。 ・1月開催分では、youtubeによる同時配信を試みた。3月開催は全オンライン型により実施した。 ・3回目までの公開講座等での寄付総額は107,400円となった。 ・3月開催での寄付(50,000円)は、公開講座参加協力の学生団体(2団体)への寄付とした。
添付	11/23 公開講座 12/25 コンサート 1/29 公開講座 3/23 公開講座

2. 事業報告

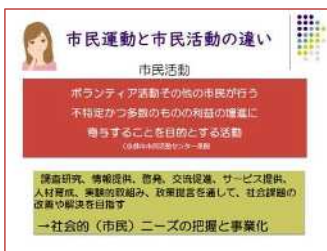
京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	3. 育成（各種講座）
目的	「担い手」と「理解者・支援者」の育成において、2本柱の事業展開を推進する。
実施概要	②各種講座の運営方法としてオンライン講座を拡充する。 ◆年間で全オンライン型の講座を10回、ハイブリッド型を9回開催した。 ◆動画配信型としては「事業年度終了後の手続き」を4月～6月と1月～3月の6か月間の視聴を可能とした。 ＜全オンライン型開催講座＞ ・市民公開講座(3/23開催) ・NPO・市民活動の落とし穴(5/13・9/4開催) ・非営利法人初歩の初歩(5/15・11/20・12/18開催) ・資金調達講座(8/21・9/4・9/25・3/12開催) ＜ハイブリッド型開催講座＞ ・市民公開講座(1/29開催) ・出張講座「会計キホンのキホン」(11/6開催) ・非営利法人初歩の初歩(10/16開催) ・事業年度終了後の手続き(12/4開催) ＜動画配信型講座＞ ・事業年度終了後の手続き 参加者：4月=3名、5月=12名、6月3名 1月=1名、2月2名、3月4名 ・「(税理士向け)NPOの会計・税務」 (11/18～12/19開催) ・NPO会計のキホンのキホン(6/5・11/6開催) ・助成金活用セミナー(4/17・3/26開催) ・目指せ認定NPO法人(8/4開催) ◆「オンラインミーティング実践」をテーマとして、「Zoom編」「LINE編」を開催した。 4/3開催「Zoom編」参加者13名 4/10開催「LINE編」参加者7名 ◆業務に役立つ！NPO法人の会計・税務講座～収益事業課税と遺贈寄付～（11/11） 共催：京都税理士協同組合 税理士であってもNPO法人の会計に詳しい人ばかりではなく、NPO・市民活動団体そのものへの理解が充分でないケースもある。税理士をNPOの支援者として位置づけ、NPO・市民活動団体の理解促進および、支援者のサポート力向上を図ることによるNPO支援の環境整備を目的として実施した。支援者への理解促進の新しい形として、初めて試みたものである。
成果	②オンライン(Zoom等)を活用した講座推進として、全オンライン型・ハイブリッド型・動画配信型の3種類の方法にて、年間26回の講座を実施し、総参加者数は、251名の参加を得ることができた。 ・「オンラインミーティング実践(Zoom編・LINE編)」は、オンライン活用での会議開催を考えている団体にとって有益な講座となっている。 ・動画配信型講座は、「事業年度終了後の手続き」が定番となっており需要もある。今後は他の分野の講座においても配信型を増やす予定としている。 ・税理士向けの講座においては、支援者支援としての試みであり、他団体との連携による開催という点でも、初めての取り組みとなった。税理士協働組合の講座に位置付けての開催としたことでしみセン単独開催よりも多くの受講者を得られた。参加者は計32(会場23人、アーカイブ9人)だった。

添付	 2021年5月13日(木)19:00~20:30 先手必勝！事例から学ぶ 「市民活動の落とし穴」 京都市市民活動総合センター (指定管理者:NPO法人きょうとNPOセンター) ＜全オンライン型講座例＞ 「市民活動の落とし穴」講座」	 ＜ハイブリッド型講座例＞ 「NPO の会計キホンのキホン」	 ＜動画配信型講座例＞ 「事業年度終了後の各種手続き」
----	--	---	---

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）		3. 育成												
目的	「担い手」と「理解者・支援者」の育成において、2本柱の事業展開を推進する。													
実施概要	③スモールオフィス入居団体への課題解決支援を促進する。 ◆今年度内において、団体の新規入居および退去は以下のとおりであった。 ・【入居】4月：「子ども環境ネットワーク」・「京自助具館」 10月：「朗読でんわ劇場」 ・【退去】6月：「NALC 京都ことの会」 9月：「暮らしのコツ研究所」 12月：「First Penguin」 1月：「朗読でんわ劇場」													
		団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1	団体A	24.1%	23.3%	27.6%									
	2	団体B	3.4%	0.0%	13.8%	0.0%	3.3%	3.4%	6.7%	3.4%	3.7%			
	3	団体C	17.2%	6.7%	6.9%	6.7%	3.3%	13.8%	16.7%	3.4%	7.4%	7.7%	3.7%	10.0%
	4	団体D	0.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	3.7%	0.0%	7.4%	0.0%
	5	団体E	6.9%	3.3%	41.4%	20.0%	3.3%	0.0%						
	6	団体F	10.3%	0.0%	13.8%	13.3%	3.3%	13.8%	6.7%	6.9%	7.4%	3.3%	7.4%	3.3%
	7	団体G	6.9%	0.0%	6.9%	3.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	3.7%	0.0%	11.1%	3.3%
	8	団体H	6.9%	0.0%	3.4%	6.7%	10.0%	3.4%	6.7%	13.8%	7.4%	7.7%	7.4%	10.0%
9	団体I	37.9%	3.3%	48.3%	30.0%	6.7%	3.4%	40.0%	24.1%	33.3%	3.8%	7.4%	6.7%	
10	団体J	31.0%	3.3%	17.2%	30.0%	23.3%	3.4%	26.7%	31.0%	22.2%	19.2%	44.4%	40.0%	
11	団体K							0.0%	3.4%	0.0%	0.0%			
12	-													
成果	◆年間入居団体数は多い月は10団体、少ない月は7団体となり、平均では9団体であった。 ◆『市民運動・市民活動の歴史』と題して、「ムーブメント2021」に出張講座を実施した。 ◆4月新規入居団体「子ども環境ネットワーク」に市縁堂参加を促し、活動紹介の機会を提供した。 ◆コロナ禍にて、ひと・まち交流館が休館となる時期が多く、施設利用の頻度は低減した。休館期間も団体の入館は可能としていたが、月に1日来館するかどうかの状況であった。 ◆年2回(5月・10月)の団体活動報告会は共にオンラインでの開催となった。													
	③入居団体には、スモールオフィス内での事務作業だけでなく、しみセンが運営する各種事業に参画できるように声掛けを進め、出張講座と市縁堂への参加を促すことができた。 ・従来、オフィスを登記住所として利用することに重点を置き、ほとんど来館しない団体もあったが、今年度の入居団体では、月によっては3～4割近く来館利用している団体も多くなってきた。													
	添付	  出張講座解説 PP 例 市縁堂 2021 への参加												

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	4. 連携・交流（「学生」・「企業」・「地域団体」との連携・協働）
目的	多様なセクターとの連携による各種事業展開の拡充をはかる。
実施概要	①「学生」・「企業」・「地域団体」との連携・協働を重視した施策展開を推進する。 ◆「学生」連携では、学生 Place+が実施する事業「学生ボランティア・チャレンジ」と連携し、ボランティア体験の学生を受け入れる NPO をコーディネートした。 提供プログラム数→18 プログラム(昨年度 8 プログラム) 実施件数→11 件(昨年度 8 件) 参加者数→27 名(昨年度 21 名)  ◆「企業」連携では、3 月開催の公開講座“学生団体と地域企業の対談”に、京都中小企業家同友会に所属する地域企業 2 社と学生団体 2 つが登壇し、地域や社会に対する視点の交流や地域企業から学生団体への様々なアドバイスなどが行われた。オンライン型で実施して、学生及び企業・団体関係者 20 名の参加があった。学生と企業の連携アイデアなども生まれた。 《登壇学生団体》 ◇お客様がいらっしゃいました ◇静原応援隊 《登壇企業》 ◇株式会社大槻シール印刷 ◇有限会社遠山 《コーディネーター》 荻原靖氏（NPO 法人きょうと NPO センター副理事長、京都府電気工事工業組合専務理事）  ◆「地域団体」連携では、8 月より地域団体(自治会・町内会等)と一緒に活動する NPO(市民活動団体)を紹介する『しみセン“つながる”ネット』を開始した。 ◆「市縁堂 2021」に地域の自治会・自治連合会の参加を促し、南太秦自治連合会が参加し、地域での活動紹介を実施した。  【学生団体との連携】市縁堂 2021 に参加 【地域団体(自治連合会)との連携】市縁堂 2021 に参加  <向島ユースセンター実行委員会> 向島地域にて若者の居場所(誰もが安心して安全にしていることのできる居場所)づくり等を進めている。  <南太秦自治連合会> 南太秦ふれあいモーニングカフェなど老若男女問わず誰でも気軽に参加し、情報交換できる事業を実施している。  <藤の木子どもキッチン実行委員会> 向島学区で藤の木小学校に通学する児童を主な対象に昼食を子どもと一緒に作り食べる活動を実施している。
成果	① 学生連携の「学生ボランティア・チャレンジ」は、昨年度、新型コロナの影響でほとんど活動ができなかったが、今年度は下半期からではあるが実施を再開して、プログラム数・実施件数・参加数において、前年度より多くの情報等を提供して、実施することができた。 - 公開講座への参画や市縁堂 2021 への参加団体としての連携を促すことができた。 - 企業連携では、上記の公開講座への登壇により、企業と学生の連携を促した。 - 自治会・町内会等へのアクション「しみセン“つながる”ネット」の取り組みでは約 30 地域から問い合わせがあった。依頼側事情によるキャンセルもあり、マッチングが成立したものは 1 件だった。 - 地域団体(自治連合会)に市縁堂 2021 への参加を促して、協働・連携を実施した。地域団体(自治連合会)が市縁堂へ参加することは初めての試みであり、今後の参加団体選定に際しての布石となった。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	4. 連携・交流（市縁堂の開催、寄付文化の醸成）
目的	多様なセクターとの連携による各種事業展開の拡充をはかる。
実施概要	②With コロナ社会での「市縁堂」の運営方法の改善を進める。 ◆今年度「市縁堂 2021」のテーマは「新型コロナウイルス感染症の影響で孤立しがちな人々への支援活動」を実践している団体のコロナ禍でも奮闘している活動を紹介することを目的とした。 【開催日時】2021年12月18日（土）13:00～16:00 【開催場所】ひと・まち交流館京都2階大会議室（来場型） 【参加団体】12団体 【参加者数】実数100名（目標100名） 【寄付総額】251,887円（京都地域創造基金・公開講座・当日会場） ◆参加団体には初めて地域での活動を主体とする「自治会・自治連合会」である“南太秦自治連合会”が参加した。また、学生が運営するグループ（実行委員会）も2団体参加した。 ※同団体については前ページ「連携・交流」にて紹介。 ◆本年度の寄付募集手段としてのクラウドファンディングは「京都地域創造基金」にて実施した。 目標額600,000円→実績77,320円（手数料差引額69,887円） ◆広報施策として、チラシ・ポスター掲載以外に「京都市子ども若者はぐくみ局」と「子ども居場所づくり“支援の輪”サポート事業」に情報発信協力を求め、配信をした。 ◆当日会場には、「子どもの居場所」として、参加団体の協力にて“遊び広場”を設営した。 ◆「市民活動を寄付で応援！寄付ロゴマーク」の公募と決定 地域自治推進室からの依頼により、京都市におけるNPO・市民活動団体への寄付促進のためのロゴマークを公募した。募集にあたっては、ウェブ上の公募サイトなどで呼びかけた。 最優秀賞に選ばれた作品は、令和4年4月1日より京都市が発行する各種広報物に掲載される。 募集期間：令和3年12月1日～令和4年2月6日（日） 応募点数：165点（応募者数122人） 最優秀賞：1点
成果	②開催に際しては全来場型にて実施し、総参加者として目標の100名を集客できた。昨年度はオンライン開催で総数80名の参加者であったので、それを上回る参加者を得ることができた。 - 参加団体には、学生運営団体が2団体、地域団体として自治連合会が1団体参加した。従来はNPOや任意団体で構成していたが、地域密着での活動をする自治会・町内会等の参画も今後の団体選定における参考となった。 - 今回のクラウドファンディングは、1). 集まった寄付が全て団体に配分できること 2). 寄付者への税制優遇措置が取れることをメリットとして「京都地域創造基金」を活用した。 - 前年度REDAYFORにて目標額50万円を達成しているため、今回60万円で設定したが、実績は大きく下回り8万円弱の結果となった。 - コロナ禍において、外で遊べない子供たちの遊び場の設定は、親子連れの参加促進に結びついた。



添
付



【参加者団体：12団体】

- ①.京都市里親会/ゆりかもめ
- ②.京都わかさねっと
- ③.子ども環境ネットワーク
- ④.GG's 者語(じーじーずものがたり)
- ⑤.チャイルドライン京都
- ⑥.happiness(ハピネス)
- ⑦.藤の木子どもキッチン実行委員会
- ⑧.ほっとマナ
- ⑨.Ma'marche(ママルシェ)
- ⑩.南太秦自治連合会
- ⑪.向島ユースセンター実行委員会
- ⑫.Reframe(リーフレイム)

【会場内プレゼン・ブース風景例】



【子どもあそび広場設置】



2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	4. 交流・連携（いきいき市民活動センター等との交流） （ボランティア・コーディネート）
目的	多様なセクターとの連携による各種事業展開の拡充をはかる。
実施概要	③いきいき市民活動センターとの事業運営協力や協働企画の実施を促進する。 ◆いきセンへの出張講座提案は新型コロナの影響（緊急事態宣言・まん延防止対策措置）で実施ができなかった。 ◆協働企画として、ラジオ番組（Happy NP0）へ出演（活動報告）として、4センターが参加した。  ◆岡崎いきいき市民活動センター◆ 2021/8/1オンエア タイトル：幅広い表現活動を通して、いきいきとした市民活動を支援 ゲスト：センター長 西野 桂子さん  ◆吉祥院いきいき市民活動センター◆ 2021/10/10オンエア タイトル：歴史、伝統文化と市民活動の交流点、吉祥院いきいき市民活動センター ゲスト：センター長 田中 純子さん  ◆上鳥羽北部いきいき市民活動センター◆ 2021/12/19オンエア タイトル：地域の人のつながりを大切に。上鳥羽の人・心・想を“つなぐ” ゲスト：センター長 上田恵美子さん 副センター長 岩本美保さん  ◆醍醐いきいき市民活動センター◆ 2022/3/20オンエア タイトル：世界文化遺産のふところ、地域の市民文化活動を支える ゲスト：醍醐いきいき市民活動センター センター長 内野道代さん スタッフ 松井久美子さん ④ボランティア・コーディネートにおける実施方法(with コロナ)を改革する。 ◆期首から情報提供・拡散を促進し、前年比で情報提供数は 172%、情報拡散数は 218%と大きく伸ばした。 ＜提供数＞ 2021 年度：74 件、2020 年度：43 件 → 前年度対比 172% ＜拡散数＞ 2021 年度：47,595 件、2020 年度：21,844 件 → 前年度対比 218% ◆「祇園祭ごみゼロ大作戦」では昨年度から新型コロナの影響にて縮小した体制で実施しており、今年度は約 200 名（昨年度約 100 名）のボランティア活動の運営を実施した。    ◆ボランティア受入れ団体への意識・課題調査アンケート初案（質問内容等）を作成して、数団体へトライアル調査を実施した。 【アンケート質問例】 質問 1：あなたの団体では①～③のどのボランティアが存在しますか？ ①事業の企画や運営にたずさわる人材 ②団体が実施する事業に継続的に関わる人材 ③団体が主催する事業の当日スタッフとして関わる人材、又は日常的に比較的簡易な作業や役割を担う人材 質問 2：ボランティアはどんな事業（活動）にどのように関わっていますか？ あるいは、どのような作業を担っていますか？ 質問 3：新型コロナの感染拡大によって団体の事業や活動に変化はありましたか？ などの質問アンケートを約 1,200 団体に配信する。
成果	③いきいき市民活動センターとの連携・交流では、これまで各センター利用者への情報提供や講座開催等を実施してきた。今年度の企画は、センター自体の活動を広く知って頂く方法での連携形態をとり入れながら継続的な連携推進を構築する施策となった。 ④ボランティア・コーディネートでは、前年度は新型コロナの影響で団体の活動休止により配信できる情報が少なかったが、今年度は団体の活動の再開もあり、春から情報をできるだけ多く配信・拡散した。その結果、前年比で提供数は約 1.5 倍、拡散数は約 2 倍の量を配信できた。プログラムへの参加者数は、団体の受け入れ状況の改善により前年度対比 167%（2021 年 229 名、2020 年 137 名）となった。

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	5. 施設管理
目的	利用者にとっての利便性の高いセンター機能の充実とサービス提供を推進する。
実施概要	①新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、施設運営を充実させる。 ◆緊急事態宣言により、5月（1ヵ月間）及び8月中旬～9月末迄（約1ヵ月半）の期間、ひとまち交流館が休館期間となり、また、解除後10月1日～21日迄（20日間）は時間短縮にて開館、および1月27日～3月21日まで「まん延防止等重点措置」適応となった。 ◆年間を通じて、常に感染症拡大防止対策を講じながら運営を実施する状況下にあった。 ◆休館・時間短縮の告知をホームページ等にて周知徹底を実施した。 ◆施設利用者への感染拡大防止行動の案内をフロア各所に掲示するなど周知を徹底した。 ◆来館者が利用する施設機器（PC・机・いす・印刷機等）の使用後は逐次消毒作業を実施した。 ②利用機器（PC・印刷機等）の保守・管理を徹底し、利用満足度を高める。 ◆公開用PC利用環境整備として、多くの方が利用できるルール（利用時間制限等）を改めて徹底するため、利用時に職員より声掛けと案内シートの配布を実施した。 ◆公開用PCウイルスセキュリティ強化等、常にシステム運用の安全面等を配慮して、保守・管理を徹底した。 ◆利用者満足度調査として「施設利用者アンケート」を実施した。（※集計グラフを巻末に添付） ③館内設置機器の維持・修繕に努め、利用者の快適な作業環境の提供を推進する。 ◆老朽化に伴う各種機器の継続利用を進めるために毎日の清掃作業を徹底した。なお、修理不可の機材については新規購入にて対応した。 ◆フロア照明機器LED化は11月・1月・2月の3ヵ月に渡り、全面交換が完了した。
成果	①今期年間稼働日数（開館日数）は269日（昨年度303日）と対前年約89%であった。なお、期間中において、感染防止対策の徹底により、館内でのクラスター感染は発生していない。 ②利用者アンケート集計結果から次の事項が明らかになった。 ・施設利用層は、月に1～2回程度、会議・ミーティングでの利用や印刷作業を目的として、60歳～70歳代の方が利用されているということが明らかになった。 ③フロア全域でのLED照明の交換作業が終了したことにより、今後、電力使用量の削減につながる。
添付	臨時休館延長のお知らせ 【延長期間】 2021年5月12日（水）～2021年5月31日（月） 【利用時間】 9:00～17:00 TEL 075-354-8721 E-MAIL: kishikawa@kita-kyoto.jp 【フロア休館等掲示案内】 【フロア全域照明LED化完了】

2. 事業報告

京都市市民活動総合センター

事業名（分類）	6. 京都市災害ボランティアセンターの運営	
目的	防災・減災を主軸とした「災害に強いまちづくり活動」を推進する。	
実施概要	①共同運営機関との連携を密にし、有事の際での迅速な連携と活動推進をはかる。 ◆市災害ボランティアセンター運営担当者が集まり、7月～3月の9回に渡り、「市災害ボランティアセンターのあり方検討会議」を実施した。 ◆市災害ボランティアセンターと区災害ボランティアセンターでの運営マニュアル策定、各運営主体の役割と連携について協議し、素案を策定した。 ②全国での災害発生時には共同運営機関と協議し、積極的に被災地支援活動を推進する。 ◆全国での被災地支援活動はなかったが、市内局所小規模災害支援活動として山科区土砂災害での山科区社協からの活動報告を共有した。 ③各区災害ボランティアセンターが実施する防災訓練へ積極的に参加協力する。 ◆下半期に予定していた区災ボラ防災訓練3件(東山区・伏見区・中央区)は、まん延防止重点措置等による影響もあり、出席者制限のためしみセンとしては参加できなかった。 ④市災害ボランティアセンター主催・共催講習会への運営協力を推進する。 ◆年間を通して、以下の各種講座・研修会に運営協力を実施した。 ・6/24 京都府立東稜高校での災害ボランティア講座 ・9/12 災害ボランティア入門講座 ・9/14 区役所・市区災害ボランティア担当者向け合同研修会 ・10/10 災害時要配慮者支援研修会 ・3/19 市災害ボランティア主催運営サポーター養成シンポジウム ⑤情報提供における SNS・ウェブ系ツールの共同開発・運用を促進する。 ◆市災害ボランティアセンターのホームページ・Facebook での情報配信協力や主催講座でのオンライン運営に積極的に協力した。	
成果	①有事の際、市・区災害ボランティアセンターでの連携体制の基盤となるマニュアル(案)が完成し、運営主体(3組織)のそれぞれの役割が明確になった。 ④各種講座・研修会において、ボランティア支援について、運営側の担当者および参加するボランティア側での様々な知識を提供することができた。今後も同講座の継続を進める。	
添付	 「東稜高校災害ボランティア講座」  「災害ボランティア入門講座」 講師：李仁鉄氏  「運営サポーター養成シンポジウム」	

2021年度実施

しみセン アンケート

京都市民活動総合センターでは、更に使いやすいセンターを目指し、利用される皆さんの声(ニーズ等)をお聞きするためにアンケートを実施。

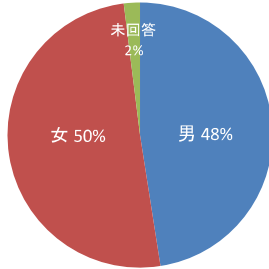
アンケート実施時期：2021年2月1日～28日

アンケート実施場所：京都市民活動総合センターフロア

有効回収数：100通

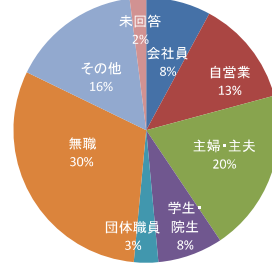
男女別

n=100



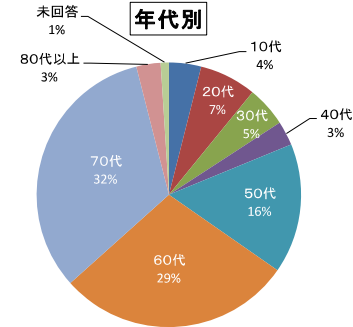
職業別

n=100



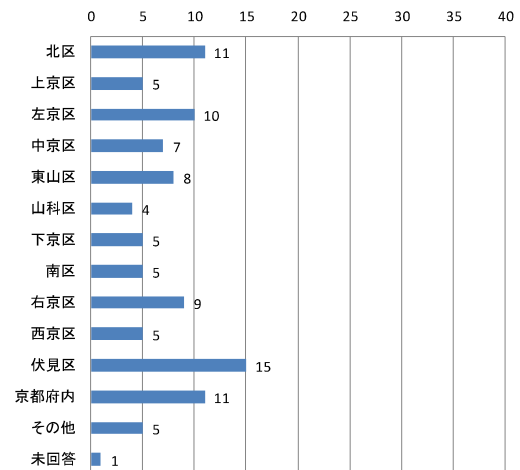
年代別

n=100



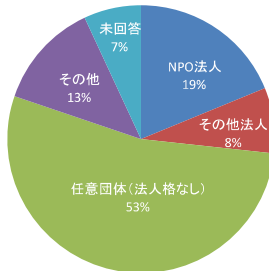
居住地

n=100



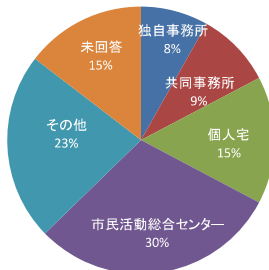
所属団体

n=100



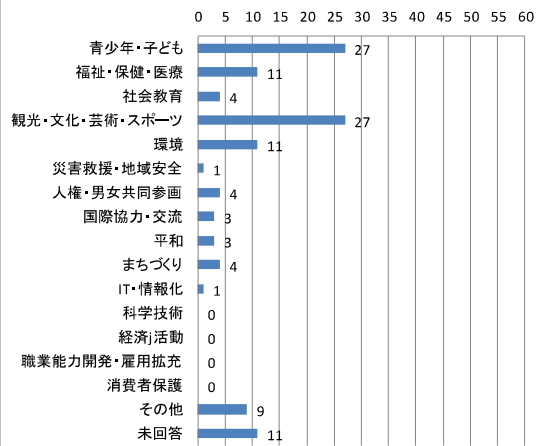
活動拠点

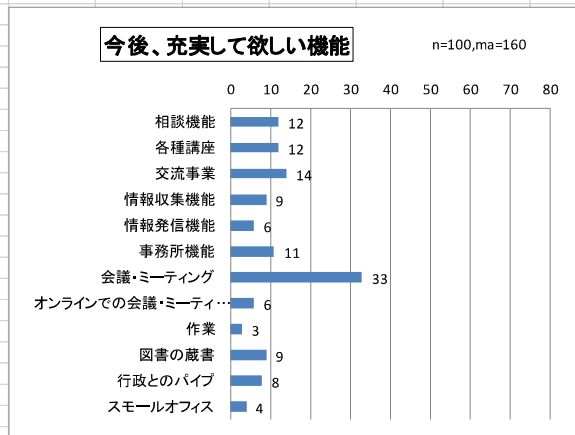
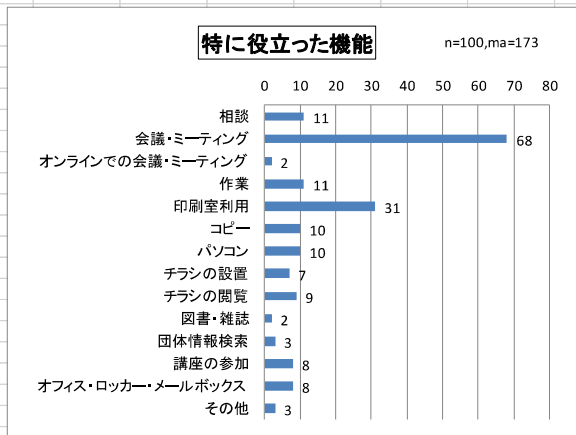
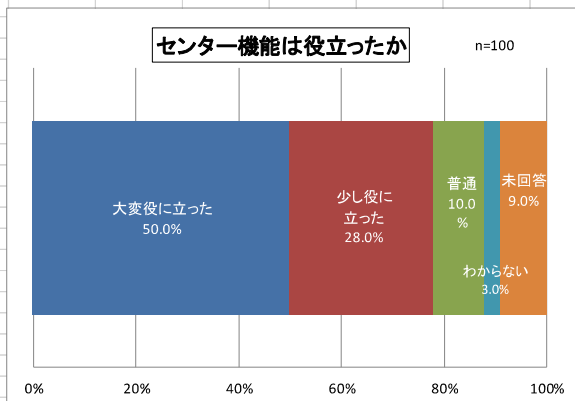
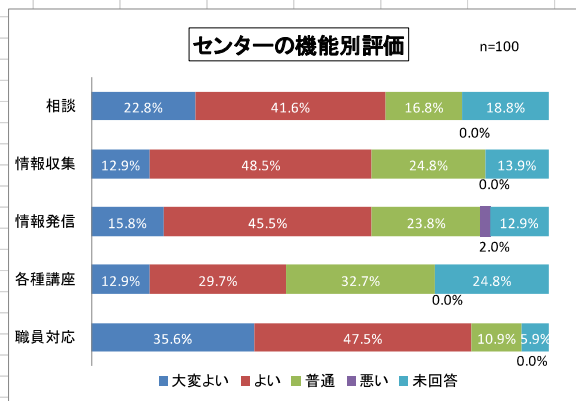
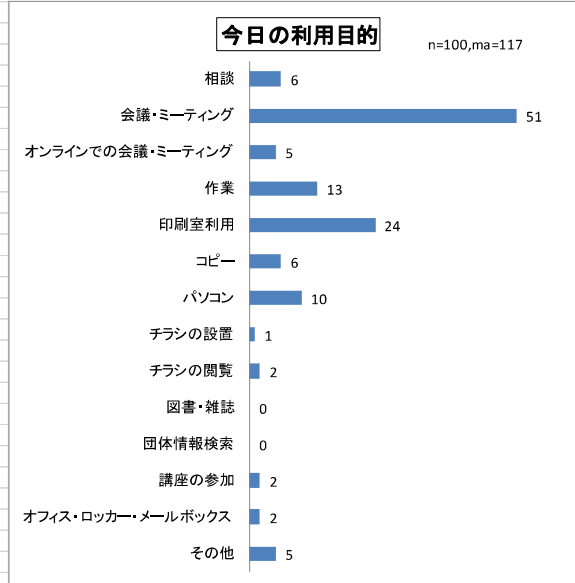
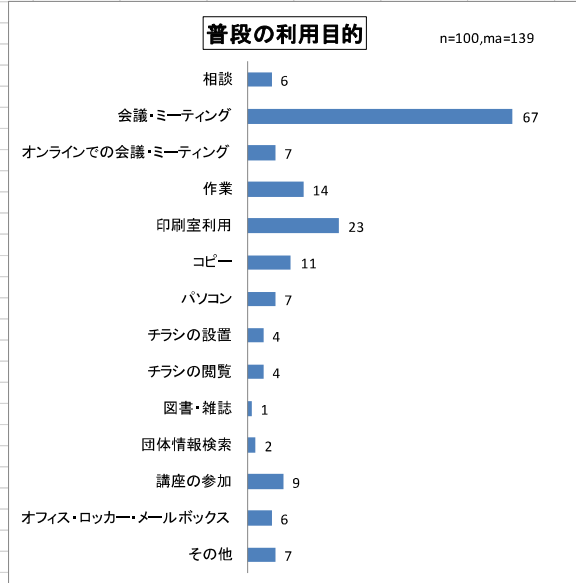
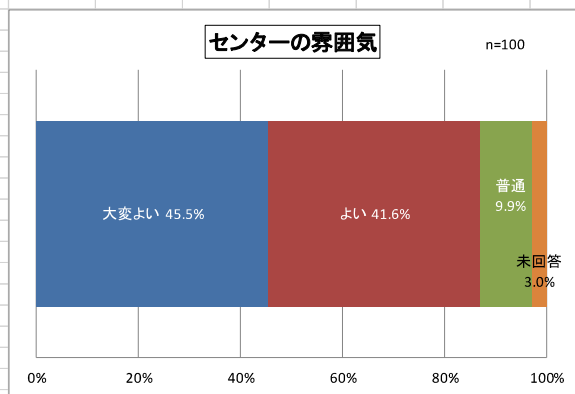
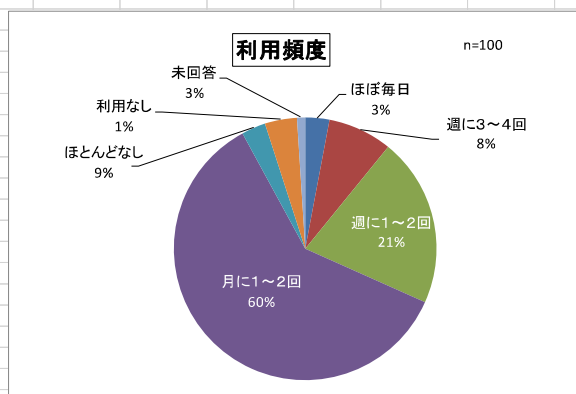
n=100



活動分野

n=100,ma=122





令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

令和2年度(2020年度)評価における評価・指摘内容	令和3年度(2021年度)事業実施概要
基礎評価	
(1) 事業内容	
①情報収集・提供事業	
新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くのNPOや市民活動団体が活動資金の確保に苦しむ中、5月には全国の助成金情報等をまとめた専用サイト「コロナほっとかないポータル」を迅速に立ち上げ情報発信を強化し点は高く評価できる。苦境に立つNPOに寄り添うネーミングで多くの人に利用してもらえたと考えられる。 また、情報ポータルサイトについて、「コロナほっとかないポータル」をリンクさせたこともあり、対前年比109%と全体の閲覧数が大きく伸びている。これは、利用者が必要とする情報を時宜にかなって効果的に発信していることによるものと評価できる。 機関誌「ほっとポット(hotpot)」については市民の関心の高い「はやり病」をテーマとするなど工夫が見られた。 また、総合センターの新パンフレットについては、写真やイラストの多用やデザインの工夫等により視覚に訴える分かりやすいものとなっている。 引き続きウィズコロナ・アフターコロナにおいて利用者が必要とする情報について様々な媒体を活用し効果的かつ分かりやすく発信されることを期待している。	【目的】NPO・市民活動団体の活動促進・参加促進に繋がる情報を発信する。 ①.情報コーナーの有効利用を推進する。 コロナ禍におけるオンラインニーズに応えるために、オンライン利用の場合にのみ予約できるスペースとして情報コーナーを活用した。ミーティングルームと情報コーナーで利用条件を変えたことで、情報コーナーはオンラインイベントの開催にも利用されるようになった。団体の活動紹介スペースとして、また公開講座関連の展示スペースとしても活用した。 ②.ホームページ・情報共有ポータルサイト・SNS等での情報発信量を拡充する。 ポータルサイトのページビュー数・ビジット数は、ポータルサイト設置後、順調に数値を伸ばしており、コロナ禍をへてさらに利用者が伸びている。 ビジット数は、令和元年度(64,239件)に比しても、令和3年度(122,788件)とおおよそ2倍となっており、多くの人に利用されるようになっていいると考えることができる。 令和2年度に緊急的に開設した「コロナほっとかないポータル」では、コロナ禍に特化した助成金情報を発信してきた。しかし、コロナ禍2年目において、緊急的に実施される助成制度が減少したこともあり、ページビュー数・ビジット数ともに減少している。緊急的な要素の強いサイトであったため、令和3年度の動向を踏まえると、おおむねその役割を終えたと考えることができる。「コロナほっとかないポータル」に掲載してきた助成金情報は、今後は従来の助成金情報に統合して発信する方向で検討を進めたい。 ポータルサイトで連載している団体紹介記事「NPOスポットライト」は月に1度掲載している。この掲載がきっかけとなって他メディアからの取材を受けるケースも出ており、団体の情報発信につながっている。 ③.hotpot/チラシ等の配架先を更に拡充する。 hotpotの配架先へ、配架状況の確認と今後の配架拡充を目的としてアンケートを行った。配架専用boxの希望もあり、次年度に取組みを進めたい。 機関紙「ほっとポット(hotpot)」は、74号では前年度に続いてコロナ禍に関連して「ニューノーマル社会をしなやかに迎えよう」として発行した。 75号では、地域の祭の保存会に注目して「地・結・継・祭」をテーマに作成した。コロナ禍をうけて、伝統的な祭も「密」を避けるために中止を余儀なくされており、地域に続いてきた文化をどう残していくかという課題がより強く意識されるようになっている。祭の保存会は、自治会・町内会とは別組織でありながら主要人物の重複もあり、地域をとらえていくためのこれまでとは異なるアプローチとして試みたものである。

令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

②相談事業 新型コロナウイルスの影響により来館での相談件数は減少した一方、電話やメールによる相談件数は増加し全体としては過去3年間で最も多い件数となった。コロナ禍における総会開催や助成金情報についてなどコロナ禍特有の相談内容が多くこれらに適切に対応されたことは評価する。相談をされた団体がその後どのような対応を取ったのかなどについて追跡調査を行いそれを踏まえて更なる情報発信をするなど、より一層の工夫を期待したい。 専門家相談会については下期からオンラインによる相談を開催される等、新たな方法を模索しており柔軟に対応された点を評価する。 また、過去の相談事例に基づき作成された「NPO法人コンサルティングBook(設立編)」は、これまでに蓄積してきたノウハウを凝縮した水準の高い冊子となっている。令和3年度に発行予定の同冊子「運営編」についても期待している。 引き続き職員間での相談内容の共有や職員のスキル向上を目的とした取組を行うとともに、社会情勢の変化や利用者のニーズに応じた相談会や講座等を開催することによりコロナ禍においても市民活動の活性化を図っていただきたい。	【目的】市民活動の多様な相談内容に、様々な手段(方法)を講じて対応し、幅広く市民個人及び団体の活動促進に繋がる総合相談窓口として機能を拡充する。 ①.オンライン相談の充実をはかる。 ・令和2年度は、コロナ禍によって従来の手続き方法が突然変わったこともあって相談が一時的に増えたが、コロナ禍2年目の令和3年度は、団体も前年度の経験を踏まえた総会等の運営が行われたとみられ、全体として相談総数は減少した。 ・オンライン相談の環境を整えたところ、緊急事態宣言のため休館であった5月には11件の相談があったが、年間では25件であった。オンライン相談が利用可能であることを伝えているが、対面・電話・メールに比べると一部の利用に限られている。 ②.多岐に渡る相談対応の記録・経験を生かした情報冊子を作成する。 ・「NPO法人等コンサルティングブック(運営編)」を1500部発行した。コロナ禍を踏まえた団体運営の方法や、しみセンに寄せられる相談から代表的なものをピックアップして掲載した。なお、発行後、団体から「内部の勉強会に使いたい」と複数部を求める連絡もあった。この冊子の編集過程においては、とり上げるテーマについて職員によるケース検討事例としても利用し、職員のスキルアップと合わせて実施した。 ③.相談対応職員のスキルアップを実施する。 ・毎月の会議内での事例共有や対応検討を行ったほか、前述コンサルティングブックの作成過程におけるケース検討を通じてスキルアップを図った。 ④.専門家相談会での実施運営方法の改善を推進する。 ・専門家相談会にもオンライン相談を導入した。利用促進のため、フェイスブックやメルマガを活用して、相談可能な内容事例等を紹介したが全体的に相談会の利用が少なかった。その背景として、コロナ禍2年目にあって利用層と想定される団体が現場対応に追われ、相談機能を利用する機会を作れなかったのではないかと推測している。 なお、前年度指摘のあった相談後の追跡調査については、一部は団体からの報告等により把握している。
--	--

令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

③育成事業	
ア 講座	
新型コロナウイルス感染症による休館期間の講座中止の影響もあり各種講座の参加数は前年度に引き続き減少したが、アーカイブ形式(録画配信)やオンラインによる開催等柔軟で、新しい試みが行われた点を評価する。 今後は、講座の短期的な公開にとどまらず、継続的な活用やオンデマンド化についても検討していただきたい。 市民公開講座については、感染対策を徹底し安全に実施された。特に新型コロナウイルス感染症をテーマとした講座の開催は多くの無関心層・潜在的関心層に市民活動を知ってもらうきっかけになったと思われる。 引き続き、ウィズコロナにおけるニーズを拾い上げながら、新しい講座の形式と内容に挑戦し続けていただきたい。	【目的】「担い手」と「理解者・支援者」の育成において2本柱の事業展開を推進する。 ①無関心層・潜在的関心層を対象とした『市民活動支援公開講座』を充実させる。 ・チャリティコンサートを含めて、全4回の市民活動支援公開講座を開催した。11月開催分では講座内容と絡めた展示の実施、1月開催分ではFacebookによる有料広告の実施で、これまでしみセンとはつながっていなかった人へのアプローチを試みた。またYoutubeによる同時配信も試み約130人の参加を得た。コロナ禍において、動物園が食品をはじめとする寄付を集める工夫にふれる内容で、市民が支えることの意味を発信することにつながった。3月開催分は、地域や社会課題解決の担い手同士として、学生団体と地域企業を引き合わせたところ、参加者数は小規模であったが、双方の視点から互いが学ぶとともに具体的な連携につながる機会となった。チャリティコンサートは、例年、半数程度はひとまち交流館やしみセンへの来館、あるいはNPOの活動に触れることが初めてという人たちを迎えており、無関心層へのアプローチとして効果が出ていると思われる。 ・公開講座ではないが、税理士向けのNPO理解のための講座を試みた。NPOの会計を担うこともある税理士だが、NPOの理解が充分でないケースもある。税理士をNPOの団体運営を支える理解者・支援者として位置づけ開催した。京都税理士協同組合との共催により実施した。 ②各種講座の運営方法としてオンライン講座を拡充する。 ・令和2年度にオンラインを利用した講座は2本、アーカイブ配信講座は1種(3か月)に対して、令和3年度はオンライン対応を行った講座は18本、アーカイブ配信は2種(6か月のものと1週間のもの)だった。オンライン化によって前年度に比べて参加者が増加した講座はある(事業年度終了後の手続き)。オンライン化によって、他府県の団体や支援センターからの申し込みがされるようになった。このため法人の手続きについて具体的には参加者それぞれの所轄庁への確認を促すなどの配慮も行っている。
イ スモールオフィス・インキュベーション	
入居団体活動報告会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止や書面審議となったが、入居団体に対するきめ細やかな支援を日頃から実施されたことなどによりスモールオフィスの年間稼働率が前年度より上がったほか、利用頻度の高い団体が増加した点は評価できる。 今後も総合センター内にいるメリットを活かし入居団体の育成及び活動の向上を促す取組が行われることを期待している。	③スモールオフィス入居団体への課題解決支援を促進する。 ・オフィス機能としての利用だけでなく、入居団体のリクエストに応じた出張講座や法人設立に伴う伴走型支援、市縁堂への参加など、機会をとらえて団体の基盤強化につながる働きかけをした。報告会は2回ともオンラインでの開催であったが、好評を得ている。さらに実務面での情報交流促進を求める声があり、東山いきセンとも相談しながら令和4年度にむけて、報告会の内容の再検討を行っている。

令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

④交流・連携事業	
ア 交流型イベントの企画・運営	
初めてのオンライン開催となった市縁堂については、従来の集客型から情報発信型へと運営方法を大きく転換し、多くの団体に参加してもらうことができた。さら、クラウドファンディングの活用等により、目標額を上回る寄付を集めるなど、新たな成果を残せたことを評価する。 新たな取組となった今回の市縁堂で得た成果を活かし今後も寄付文化の醸成を促す効果的な取組が行われることを期待している。	【目的】多様なセクターとの連携による各種事業展開の拡充をはかる。 ①「学生」・「企業」・「地域団体」との連携・協働を重視した施策展開を推進する。 ・「学生」・「企業」との連携においては、学生Place+が実施した「輝く学生応援アワード」と連携し、アワードで入賞した団体から2団体を市民公開講座に招いて、京都中小企業家同友会所属の地域企業2社との対談を市民公開講座として実施した。参加者数は小規模であったが、地域づくりの担い手としての両者間の、またしみセンとの関係性づくりに効果があった。 ・地域との連携としては、「しみセンつながるネット」の運用を開始し、自治会・町内会とNPO・市民活動団体のマッチングに着手した。30件ほどの問い合わせがあったが、マッチングとして成立したのは1件であった。 ②Withコロナ社会での「市縁堂」の運営方法の改善を進める。 ・運営方法を会場型に戻して実施し、学生団体2団体ほか、初めての参加となる自治連合会を含めて全12団体の参加があった。寄付は、当日会場での寄付の他、市民公開講座(3回分)と公益財団法人京都地域創造基金を通じたもので合計約25万円となった。 ・寄付文化醸成の取り組みとして、地域自治推進室からの依頼をうけて「市民活動を寄付で応援！ロゴマーク」の募集を行った。全国から165点の応募があり、最優秀賞1点を選んだ。
イ いきいきセンターをはじめとする様々な主体との交流・連携	
前年度から開始した「出張講座」を継続して実施したほか、各いきいきセンターに対 して「市縁堂」への参加呼びかけを行い運営面でも協力するなど各センターとの連携について一定の実績が見られた。 今後はいきいきセンターとの交流・連携をさらに深め各事業における運営協力や協働企画の拡大を図ること、さらには、イベントの連携にとどまらず、市民活動の更なる活性化に向けた指針を提示するなど市民活動の総合拠点としてリーダーシップを発揮されることも期待したい。	③全いきいき市民活動センターとの事業運営協力や協働企画の実施を促進する。 ・学生Place+として連携して行う「学生ボランティアチャレンジ」において、吉祥院いきいき市民活動センターが学生受け入れの団体となった。子ども食堂「ししまる食堂」で、大学生の受け入れを予定していたが、まん延防止等重点措置のため団体の担当者へのインタビューのみとなった。 ・各センターもコロナ禍により事業がままならないなか、しみセン指定管理者が運営するラジオ番組「Kyoto Happy NPO!」に各団体の活動紹介機会をコーディネートした。岡崎、吉祥院、上鳥羽北部、醍醐の4センターが出演した。
ウ ボランティア・コーディネート	
新型コロナウイルス感染症の影響による受入れ団の活動停止を受け一般コーディ ネートの件数は大幅に減少し、その他のコーディネート事業についても、中止や開催方法の変更等により大きな実績は得られなかった。 コロナ禍という状況でやむを得ない結果ではあるが、今一度事業の見直しと再構築を行い市民のより活発な社会参画促進のために、新しい視点を取り入れたボランティア・コーディネートを行っていただきたい。	④ボランティア・コーディネートにおける実施方法(withコロナ禍)を改革する。 ・令和2年度は多くの団体でボランティアの受け入れが停滞したが、令和3年度は一部受け入れも再開され、229人の参加をコーディネートした。 ・ボランティア募集情報の拡散数は、コロナ前(2019年度)に比しても増加傾向にある。 ・コロナ禍を受けて団体の受け入れ状況が変化していることも考えられることから、団体にボランティアの受け入れ状況や課題に関するアンケートの実施を進めている。令和4年度に本格実施をするために、令和3年度はアンケートの設計と数団体へのトライアル調査を行った。令和4年度の結果を踏まえて、ボランティア情報の発信方法の改善にも役立てる予定をしている。

令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

(2)サービスの向上	
前年度に引き続き実施された独自アンケートの結果によるとセンターの雰囲気や機能が良く評価される傾向が続いている。一方で、「会議・ミーティング」を「特に役立った機能」であると同時に、「今後、充実して欲しい機能」と考えている利用者が多く、コロナ禍における対応の難しさをうかがわせる。 しかしながら、コロナ禍において、センター内に整備した大型モニターを使用したオンライン会議の利用促進、各種講座やイベントのオンライン開催、助成金情報に関する専用サイトの開設等、「今できること」を模索しながら、社会情勢の変容とニーズの変化を的確に捉えて柔軟に対応されたことは評価する。アンケート結果の分析を活かし、ウィズコロナ・アフターコロナにおける新たな利用者のニーズにも的確に応えられるサービス提供に努めていただきたきたい。	【目的】利用者にとっての利便性の高いセンター機能の充実とサービス提供を推進する。 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、施設運営を充実させる。 ・来館者が触れる部分の定期的な消毒、レイアウトの工夫などにより感染対策を行った。 ・令和2年度中に開始したオンライン会議環境の提供により新たな団体の利用もみられ、しみセンの新機能として浸透しつつある。ミーティングルームと大型モニターが利用可能な情報コーナーで利用条件を変え、情報コーナーでは対外イベントにも利用できることから、利用件数を伸ばしている。 ・利用者アンケートにおける「会議・ミーティング」機能への満足感と期待感が両方あることについては、ひとまち交流館会議室の有料化も受けて、ミーティングルーム等の利用条件について、改めて検討の必要性を感じている。 ②利用機器(PC・印刷機等)の保守・管理を徹底し、利用満足度を高める。 ・公開用パソコンが、固定の利用者が長時間利用する傾向がある状況を改善するため、利用ルールを徹底して利用者に共有を図った。これにより利用者同士のトラブルが減少し、また席が空いている状況を作ることによって希望者が利用申し出をしやすい環境となった。 ③館内設置機器の維持・修繕に努め、利用者の快適な作業環境の提供を推進する。 ・フロア照明のLED化がすべて終了した。
(3)施設管理	
スモールオフィス、ロッカー、メールボックスの運営をはじめ、市民活動団体等が必要とする事務機器の管理を適切に行っている。また、飛沫防止対策やレイアウトの工夫、利用者人数の制限等の感染防止対策のほか、オンライン会議実施のための環境整備など、コロナ禍における適切な施設運営をされている。 従来から利用件数の低迷が課題となっている小型ロッカーについては、あり方を含めた有効な活用方法を京都市とともに検討いただきたきたい。 また、図書の充実や空間の演出などにより、より利用したくなる雰囲気づくりを目指していただきたきたい。	(2)の記述も参照してください。 ロッカーは、従来はサイズに限らず1団体1つの利用としてきた。令和4年度4月からの利用募集に際して、ロッカー小に限っては2つ目のロッカーとしての使用を可能とし、利用イメージを紹介するなどの工夫により募集準備を行った。小サイズを好んで使用する団体は一定数あり、当面は、こうした団体の利用環境を維持することを前提として考えたい。
(4)執行体制	
少人数出勤やテレワーク導入を進めながらも市民活動団体への支援を円滑に実施され、執行体制は万全と見受けられる。 引き続きコロナ禍を契機に増えたテレワークの利点を活かしつつ適切なワーク・ライフ・バランスが実現できるよう、執行体制や働き方について検証を行い、質の高い指定管理業務を維持していただきたきたい。	年間を通じておよそ2か月半の休館期間においても職員は出勤し、電話等による相談および一部の施設利用に応えた。指定管理団体としてはテレワーク規定も設けており、規定に則ったテレワークを実施している。子育てや家族の介護を要する職員の働き方にも柔軟に対応できる環境を整えており、職員の自己研鑽のための副業も認めるなど、適切なワーク&ライフバランスとなるよう就労環境を管理している。
(5)財務状況	
コロナ禍で急遽発生した予算外の経費についても、イベントの中止や事業の実施方法の転換等により適切に対応され、状況を踏まえた予算執行がされていた。 引き続き、各事業の費目別及び事業別の執行計画を作成したうえで状況に応じて柔軟かつ適切に予算を執行し効率的な事業運営を行うように努めていただきたきたい。	コロナ禍の状況変化に伴い、事業の実施形態を変更したことによる予定外の支出があった一方、講師謝金等の未使用分が発生するなどの変動はあったが、全体では予算額内で執行された。

令和2年度(2020年度)評価における指摘事項に対する令和3年度(2021年度)事業実施状況

全体評価	
(1)施設の利用状況等について	
総合センターの来館者数については、令和元年度にミーティングルームの利用方法の変更や交流スペースの活用促進策を講じた結果、近年は増加傾向にあったが令和2年度については、施設の閉館や開館時間の短縮等の影響により減少に転じた。コロナ禍において今後の来館者数が見通せない中、利用者のニーズに合わせた利用しやすい施設を目指してオンラインの活用をはじめとした様々なサービスや機能を充実させ来館によらない方法も含めた利用者の増加に向けて取り組んでいただきたい。	令和3年度は、緊急事態宣言による休館により、令和2年度よりも開館日数が少ない状況となった。通年で見れば来館者数は令和2年度に比しても少なくなっている。しかし、オンライン会議の参加者は対面で開催する場合より増える傾向があり、ミーティングルームの対面開催では収容できない人数での会議・イベントが、しみセンを拠点に開催されていると考えることができる。またオンラインによる講座参加やアーカイブの視聴など、「来館によらない方法による利用」も増えていると考えることはできるだろう。
(2)管理運営全般に対する評価及び助言	
ア 事業全般について	
コロナ禍においても、これまでの経験で培ったノウハウやツールを活かして創意工夫し質の高い事業を最大限実行されたことを高く評価する。新たな取組で得た成果を今後の取組に活かしていただきたい。 引き続き市民活動団体等が置かれる状況やニーズの変化を的確に捉え市民活動の推進や活性化に向けた相談・講座に着実に取り組むとともに、ウィズコロナに対応した柔軟で先進的な取組を行っていただきたい。また、新たな社会課題の解決に取り組む市民活動を力強く支援されることを期待する。	令和2年度からのコロナ禍により、提供する機能や内容およびその提供方法の工夫を行い、令和3年度はオンライン会議などアフターコロナにおいて標準装備となると思われる機能がより使いやすくなるよう改善を行った。また環境整備だけでなく、そうした機能をNPO・市民活動団体が利用しやすいように、ZoomやLINEなどのツールの使い方を学ぶ講座も併せて提供した。コロナ禍の対応として急遽設置した「コロナほっとかないポータル」については、令和3年度の利用状況からほぼ役割を終えたと考えられることから、そのシステムを新たなサービスに転用する可能性を探っている。 支援者拡大の一つとして、税理士向けにNPOの理解促進につながる講座を京都税理士協同組合との共催で開催できたことも、NPO・市民活動団体が透明性を高めながら活動する環境を支える一助となったと考える。
イ 執行体制について	
※基礎評価(3)執行体制で記載済	
ウ 市民活動の総合的な拠点としての役割について	
市民活動の総合的な拠点として、市民活動の場所の提供にとどまることなく、職員が積極的に外に出て情報発信したり、団体同士のマッチング機能を進化させたりするなど、より一層市民活動を活性化させるための取組を実施していただきたい。 また、一定の市民活動団体等には総合センターの存在や機能は十分に浸透しており今後は、いかに無関心層や潜在的関心層を取り込んでいくかがポイントとなる。各事業のテーマや目的を再設定しPRを強化することで新たな市民活動の担い手も取り込みより一層市民活動を活性化させるよう努めていただきたい。 アフターコロナ社会においては、厳しい状況に置かれる団体がある一方で新しい社会課題の解決に取り組む新たな市民活動団体も登場することが想定される。これまでの経験で培ったノウハウを活かしながら、新しい支援の在り方も模索しウィズコロナ・アフターコロナにおける市民活動団体の状況にも柔軟に対応できる体制を構築していただきたい。 施設を所管する京都市においては、新型コロナウイルス感染症の状況をはじめとする様々な社会情勢の変化に対応しながら指定管理者に対する必要な助言・連携等を図っていただきたい。	・3月公開講座は、学生団体と地域企業の関係性づくりを主眼としてもものだった。学生団体のうち一つはコロナ禍によって顕在化した課題を扱い、もう一つの学生団体および地域企業の取組みは、従来から行われてきたが、コロナ禍を経験した社会において新たに注目すべき取組みともいえる。両者をともに地域での取組みの担い手として位置づけ、しみセンとそれら団体の関係性構築と同時に、団体と企業、参加者からの情報や機会の提供などの関係性づくりの場となった。 ・1月開催の公開講座においては、コロナ禍のなか話題になっている京都市動物園の取組みを寄付と絡めた講座として組み立て、従来しみセンを知らない層へのアプローチを念頭にFacebookの有料広告やyoutubeでの配信を試みるなどした。こうした試みをもとに、より無関心層・潜在的関心層へのアプローチを進めていきたい。 ・令和3年度に準備を行い、令和4年度に本調査を行う予定のボランティアの受け例状況に関するアンケートは、その結果に基づいて、ボランティア情報の発信やコーディネートについて検討する予定としている。 ・地域との関係づくりはhotpot75号やしみセンつながるネットで試みを始めており、企業や学生団体との連携も着手したところである。 ・NPO・市民活動団体において、各団体の変化に寄り添いながら多様な選択肢を提示できるよう取り組んでいる。

京都市市民活動総合センター 令和元年度～令和3年度 統計実績

項 目		令和元年(2019年度)		令和2年(2020年度)		令和3年(2021年度)	
		指定管理第4期					
開所日数		347日		303日		269日	
センター 来館者数	年間 (1日平均)	86,915人 (250.5人)		60,400人 (199.3人)		56,826人 (211.2人)	
	累計	2,075,893人		2,136,293人		2,193,119人	
① 情報収集・提供							
HPアクセス数		151,884件		129,838件		132,609件	
SNS拡散数 (facebookリーチ数)		54,754件		37,030件		38,019件	
情報共有ポータルサイト(ページビュー数/ビジット数) ※R2年度より(内コロナ専用サイト数)		230,152件	64,239件	249,953件 (17,752件)	93,848件 (7,869件)	282,459件 (11,130件)	122,770件 (7,308件)
インフォメーションサービス登録(年度末日の実数)		*集計なし		632		612	
メールマガジン登録件数(年度末日における実数)		2,482件(※11月に情報精査)		2,517件		2,566件	
情報誌の発行 (hotpot)		20,000部(2回)		20,000部(2回)		20,000部(2回)	
チラシコーナー配架件数		2,766件		1,970件		2,161件	
② 相 談							
応対総数(電話/メール・窓口・オンライン) ※R3年度からオンライン件数含む		年間 (1日平均)	29,333件 (84.5件)	21,852件 (72.1件)		18,684件 (69.5件)	
相談総数(電話/メール・窓口・オンライン) ※R3年度からオンライン件数含む		年間	1,159件	1,219件		1,046件	
一般相談(電話/メール・窓口・オンライン) ※(内オンライン数)	年間	460件		432件		396件(内16件)	
	(1日平均)	(1.33件)		(1.43件)		(1.47件)	
	全件	659件		754件		636件	
	法人認証・認定相談 (電話/メール・窓口・オンライン) ※(内オンライン数)	内:電話/メール等対 応 ※R3年度 (内オンライン) 内:来館相談対応	272件	467件		404件 (内9件)	
	時間	523.0時間	520.5時間		429.5時間		
専門相談会総数 ※R3年度よりオンライン相談会含む		年間	30回 40件	33回 33件		13回(内中止1回) 14件 (内オンライン3回 4件)	
専門家相談会/会計		11回	16団体	固定7回+随時5回	14団体	固定2回+随時2回	5団体
認定専門家相談会(会計)		6回	10団体	固定9回	8団体	固定7回(内中止1回)	7団体
認定専門家相談会:テーマ別		13回	14団体	固定3回+随時9回	11団体	随時2回	2団体
③ 育 成							
講座等参加者数		55回(内中止6回)	814人	59回(内中止6回)	771人	75回(内延期4回)	747人
入門講座	入門講座	32回(内中止3回)	590人	30回(内中止1回)	567人	44回(内延期4回)	488人
	NPO初歩講座 ※(内オンライン/ハイブリット開催数・参加者数)	9回(内中止1回)	460人	6回	400人	7回 (内オンライン等3回)	322人 (内オンライン等116人)
	NPO法人設立講座 ※(内オンライン/動画配信開催数・参加者数)	23回(内中止2回)	130人	24回(内中止1回)	167人	37回(内延期4回) (内オンライン等6回)	166人 (内オンライン等22人)
	専門講座	23回(内中止3回)	224人	29回(内中止5回)	204人	31回	259人
	認定NPO講座 ※(内オンライン/動画配信開催数・参加者数)	23回(内中止3回)	224人	29回(内中止5回)	204人	31回 (内オンライン等17回)	259人 (内オンライン等113人)
④ 交流・連携							
コーディネート事業							
コーディネート情報提供(照会)		519件		492件		369件	
" 仲介確認中(紹介)		45件		37件		75件	
" 成立		16件		13件		11件	
ボランティア・コーディネート需給件数							
ボランティア募集情報提供数		132件		43件		74件	
団体情報拡散数(※情報共有ポータルサイト掲載件数含む)		40,652件		21,844件		47,595件	
V・Co成立件数(※祇園祭ごみゼロ大作戦件数含む)		56件	1,980人	9件	137人	13件	229人
市民活動イベント(市緑堂) (参加者・寄付額)		参加数: 210人	寄付総額: 169,600円	参加者(オンライン): 80人	寄付総額: 596,700円	参加数: 100人	寄付総額: 259,320円
視察等外部との交流・連携		10回	97人	2回	45人	3回	72人
スモールオフィス (12) @5,000/月⇒R1/10～@5,230/月							
ロッ カー	大 (24) @800/月⇒R2/4～@830/月	9団体		11団体		9団体	
	中 (24) @500/月⇒R2/4～@520/月	35団体		36団体		36団体	
	小 (18) @200/月⇒R2/4～@200/月	21団体		20団体		17団体	
メールボックス(96) 無料 ⇒R2/2～(95)		10団体		8団体		6団体	
印刷室利用件数		83団体		85団体		83団体	
印刷室利用件数		2,887件		1,737件		1,324件	

～市民がご縁のもと、一堂につどう会～

市縁堂 2021

【実施報告書】



題字/大徳寺塔頭 黄梅院二十世住職 小林太玄 師

主 催：京都市市民活動総合センター

企画・運営：市縁堂 2021 実行委員会

「市縁堂 2021」実施報告

1. 【市縁堂 2019 開催主旨と要点】

私たちが日々の生活の中で感じる様々な疑問、不安や悩みに関して、自分が当事者になって初めて気づく「問題」があるかも知れません。「困ったな！」「どうしよう？」「どこに相談すればいいの？」そんな状況を「ほっとけない！」と活動してきたのが『NPO・市民活動団体』です。

京都には、たくさんの「ほっとけない」問題があり、困っている人や状況を「ほっとかない」と活動してきた様々なNPO・市民活動団体があります。その活動内容に触れると共に、それぞれの団体が取り組んでいる「ほっとけない」社会問題についても深く知ることができるのが市縁堂です。更に、その取り組み「いいな！！」と思ったら、寄付によってNPO・市民活動団体を応援する寄付文化醸成も含めたイベントとして開催しています。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響は、未だ終息の兆しは見えていません。相次ぐ緊急事態宣言でのステイホーム状況では様々な社会課題が浮き彫りとなりました。

例えば、学校が一斉に休校となったことで、学校にも行けず、友達にも会えずの日々が続いた子どもたちや感染すると重症化するリスクが高いことから、閉じこもりがちとなってしまった高齢者、子育て支援センターが休館となり相談場所を無くした子育て家庭など、今なお、多くの人々が孤立しやすい環境に置かれています。

昨年度は活動そのものを見合わせる団体も多くありましたが、出来る範囲で対策を講じながら、徐々に活動を再開している団体も増えています。特に孤立しがちな人々に情報や居場所を提供する活動や新型コロナ感染症の影響で困難を抱える人々に対して寄り添う活動は、これまでと同様の支援活動は出来ないとしても、活動を止めてはいけないと奮闘しています。

今年度の市縁堂では、このような「新型コロナの影響で孤立しがちな人々への支援活動」をしているNPO・市民活動団体・地域自治連合会等を公募によりピックアップし、その取組活動を紹介すると共に寄付支援も併せて、応援したいと企画しました。

実施に際しては、with コロナ/after コロナの状況下、昨年度同様にオンライン (Zoom) によるリモート形式での報告を数日間に渡り放映する「市縁堂 Week」を設けると共に、12 月には会場来場型にて直接団体から活動内容を聞く機会を設け、多くの方々に、この社会課題解決の取組を伝えられるように開催しました。また、寄付募集では、『市縁堂寄付月間』として、開催期間中に多様な寄付支援媒体を通して、多くの方々にアプローチし、活動団体への支援 (寄付) を募りました。

運営に際しては、事務局と共に企業・教育機関・NPO など多様なセクターの有識者により構成した「実行委員会」にて、開催半年前からオンライン会議を中心に幾度の会議を重ね、当日の各種プログラム・広報等協議しながら実施に至りました。

2. 【開催日時】 2021 年 12 月 18 日(土) 13:00~16:00

【会場】 ひと・まち交流館京都 2 階 大会議室

【参加者数】 100 名



3.【運営組織】市縁堂 2021 実行委員会メンバー（敬称省略）

実行委員長	杉本 星子	京都文教大学 総合社会学部 教授
実行副委員長	浅井 政嗣	株式会社つむぎや 代表取締役
実行委員	小島 淳	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社 西日本プライベートバンキンググループバン ク・リレーションシップ・マネージャー、ディレ クターオブインベストメント
実行委員	水谷 智子	株式会社アイエヌジーリンク 代表取締役
実行委員	森野 茂	アルファトラベル株式会社 代表取締役
実行委員	米原 裕太郎	公益財団法人京都市ユースサービス協会 チーフユースワーカー
事務局	京都市市民活動総合センター スタッフ 4 名	



※プログラム内容・構成・運営に関して事務局のみならず、全委員が実施活動に参画しています。

4.【当日のスケジュール】

時 間	プログラム内容
12 : 45~	ご来場者入場
13 : 00~13 : 10	市縁堂2021開催オープニングあいさつ
13 : 10~14 : 10	団体活動プレゼンテーション 第1グループ(以下①~⑥の団体)
14 : 10~14 : 20	休憩
14 : 20~15 : 20	団体活動プレゼンテーション 第2グループ(以下⑦~⑫の団体)
15 : 20~15 : 55	各団体ブースでの活動紹介
15 : 55~16 : 00	市縁堂2021終了のあいさつ
16 : 00	市縁堂2021終了



5.【参加団体 12 団体】

①. 京都市里親会/ゆりかもめ

京都市の登録里親で構成し、里親制度の普及啓発活動や、里親どうしの交流会や研修会等を実施。



②. 一般社団法人 京都わかくさねっと

すべての少女たちが、「自分らしく、心豊かに生きる社会」を作り上げることを目指して活動。



③. NPO 法人子ども環境ネットワーク

子供たち自身が地球を考えた自発的な行動を起こすことに対し、支援事業を行い、自然環境保全寄与活動を実施。



④. GG's 者語(じーじーずものがたり)

高齢者の孤立問題に取り組む市民団体。高齢者が自分史を語り、高齢者支援団体等がサロン情報等を提供している。



⑤. NPO 法人 チャイルドライン京都

18歳までの子どもたちが「誰でもいつでも、どこからでもかけることができる」子ども専用の電話を20年間実施。



⑥. NPO 法人 happiness (ハピネス)

子ども支援活動及び教育事業(子ども食堂の運営、学習支援の運営、子ども支援活動に関する情報収集及び提供)



⑦. 藤の木子どもキッチン実行委員会

向島学区で藤の木小学校に通学する児童を主な対象に昼食を子どもと一緒に作り食べる活動を実施。



⑧. ほっとマナ

子ども達に将来への夢や希望をもって成長できるよう支援するために地域に根差した「子ども達の居場所づくり活動」を実施。



⑨. Ma'marche (ママルシェ)

外出を自粛して買い物に行きにくい子育て中のママや高齢者に向け地域に商品をお届けする活動を実施。



⑩. 南太秦自治連合会

南太秦ふれあいモーニングカフェなど老若男女問わず誰でも気軽に参加し、情報交換できる事業を実施。



⑪. 向島ユースセンター実行委員会

向島地域に於いて若者の居場所(誰もが安心して安全にしていることのできる居場所)づくり等を進めている。



⑫. Reframe (リーフレイム)

学校や家庭以外に子どもが安心して過ごすことができ、学校以外に学習の機会が得られ、地域の人と共に子どもの成長を喜び合える場所を作る活動などを実施。



6. 【各種プログラム】

I. 各ブースでの団体の活動紹介及び寄付募集



◇各ブースでの団体紹介時に来場者から直接寄付(寄付金及び応援メッセージ)を募集しました◇
《会場での寄付受付総額》45,500 円

来場者に、「寄付袋」と「応援メッセージカード」を配布して、応援したい団体へ直接、お渡ししました。

[illegible]

Message Card

市張堂
第一張堂一

寄付袋

団体応援メッセージカード

Ⅱ ステージにて活動ショートプレゼンテーション



京都市里親会/ゆりかもめ



京都わかくさねっと



子ども環境ネットワーク



GG's 者語



チャイルドライン京都



Happyness



藤の木こどもキッチン実行委員会



ほっとマナ



Ma'march



南太秦自治連合会



向島ユースセンター実行委員会



Reframe

Ⅲ. 子どもの遊び広場の設置



ヨーヨー釣り



ペットボトル輪投げ



折り紙教室



手づくり
クリスマスガーランド

◇コロナ禍で、「遊び場」がなかった子供たちが、元気よく楽しく遊んでいました◇

IV. 参加団体活動紹介「市縁堂 2021 特設サイト」

【市縁堂 2021 特設サイトトップページ】

URL: <https://shimisen-kyoto.org/shien-do-2021>



12/18 土 来場型 イベント
start 13:00~16:00
参加費 無料 (事前申込み不要)
【 】 ひと・まち交流館 京都 大会議室

寄付募集期間
11/18 木
'22
1/31 月迄
申告により 税制優遇を受けられます

市縁堂(しえんどう)とは？

「市縁堂(しえんどう)」は、市民の皆さんが NPO や市民活動団体とのコミュニケーションを通して、その活動内容に触れるとともに、それぞれの団体が取り組んでいる「ほっとけない」社会課題についても深く知ることができるイベントです。

本年の市縁堂は、直接団体から活動内容を聞くことができる会場来場型のイベントとして開催するとともに、参加団体の活動内容を動画等で紹介しています。

※ 当特設ページでは「市縁堂 2021」に参加するNPO・市民活動団体の活動内容やイベント・セミナー情報/ボランティア募集情報/寄付先情報を紹介しています。

- ・主催：京都市市民活動総合センター
- ・企画・運営：市縁堂 2021 実行委員会

ご寄付は税制優遇の対象となります。

京都地域創造基金を通じた「市縁堂2021」への寄付金は、寄付金控除等の税制上の優遇措置の対象となります。

※ 税制優遇の詳細については、京都地域創造基金の下記ページにてご確認ください。

税制優遇について

特定の参加団体を指定しての寄付も可能です！

応援したい団体を指定して寄付した場合、寄附全額を対象団体にお渡しします。

※ 寄付者は寄付申込時に、その旨を京都地域創造基金に伝える必要があります。指定がない寄付は参加団体で均等割りにて配分致します。

V. 参加団体活動紹介 on 特設サイト

「なにかちょっと社会にいいことを」と思っているあなたに。

「新型コロナの影響で孤立しがちな人々への支援活動」に取り組んでいる NPO・市民活動団体、地域自治連合会等を寄付で応援してください！

相次ぐ緊急事態宣言でのステイホーム状況では様々な社会課題が浮き彫りとなりました。例えば、学校生活において感染防止のため様々な制限ができたことで、学校に行くのが憂鬱になってしまった子どもたち、感染すると重症化するリスクが高いことから、閉じこもりがちとなってしまった高齢者、子育て支援センターが休館となり相談場所を無くした子育て家庭など、今なお、多くの人が孤立しやすい環境に置かれています。

特に孤立しがちな人々に情報や居場所を提供する活動や新型コロナ感染症の影響で困難を抱える人々に対して寄り添う活動は、これまでと同様の支援活動は出来ないとしても、活動を止めてはいけなと奮闘しています。

＜団体紹介掲載例＞



京都市里親会 ゆりかもめ

様々な家族のカタチが広がっていく社会を目指しています。



一般社団法人 京都わかくさねっと

私たちは、困難を抱えた少女たちに寄り添い支える活動をしています。



NPO法人 子ども環境ネットワーク

子どもたち自身が、大切な環境を守るために行動を起こす。その実現を応援。



GG's 者語 (じーじーずものがたり)

“自分史カフェ”で高齢者の地域デビュー



NPO法人 チャイルドライン京都

子どもの権利が保障される社会は、子どももおとなも心豊かに生きる社会。



NPO法人 happiness (ハピネス)

子供食堂を通じて、子ども達が健全に育つ社会作りにご協力を！

VI. 京都地域創造基金での寄付募集

京都地域創造基金寄付募集トップページ

[HOME](#)[活動実績](#)[プロジェクト検索](#)[助成金情報](#)[お知らせ](#)[組織概要](#)[お問い合わせ](#)

環境・地域・文化

[Twitter ツイート](#)[Facebook シェア](#)[LINEで送る](#)

市縁堂2021

全ての人が「ほっとけない」社会課題に取り組む社会を

現在は、多くのNPO・市民活動団体が社会の課題解決に向けて尽力していますが、殆ど知られていません。

多様な媒体（通信・紙）を通じて、このコロナ禍に於いて頑張っている諸団体の活動を広く発信、市民からの支援を促進していきます。

達成率
13%

達成金額：77,320 円 / 目標金額：600,000 円

残り

0日0時間0分

○ 事業の背景

「市縁堂(市民がご縁のもと、一堂につどう会)」は、京都市市民活動総合センターが2013年から様々なフィールドで活躍するNPOや市民活動団体の活動を紹介するイベントとして、毎年開催してまいりました。

私たちが日々の生活の中で感じる様々な疑問、不安や悩みに関して、自分が当事者になって初めて気づく「問題」があります。「困ったな!」「どうしよう?」「どこに相談すればいいの?」そんな状況を「ほっとけない」と活動してきたのが『NPO・市民活動団体』です。

京都には、たくさんの「ほっとけない」問題があり、困っている人や状況を「ほっとかない」と活動してきた多くのNPO・市民活動団体があります。



その活動内容に触れると共に、それぞれの団体が取り組んでいる「ほっとけない」社会問題についても深く知ることができるのが、この市縁堂です。更に、その取り組み「いいな!!」と思ったら、寄付によって、NPO・市民活動団体を応援する寄付文化醸成も含めたイベントとしても開催しています。

○ 事業の目的

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響は、未だ終息の兆しは見えていません。相次ぐ緊急事態宣言でのステイホーム状況では様々な社会課題が浮き彫りとなりました。

例えば、学校が一斉に休校となったことで、学校にも行けず、友達にも会えずの日々が続いた子どもたち。感染すると重症化するリスクが高いことから、閉じこもりがちとなってしまった高齢者。子育て支援センターが休館となり相談場所を無くした子育て家庭など。今なお、多くの人々が孤立しやすい環境に置かれています。

昨年度は活動そのものを見合わせる団体も多くありましたが、出来る範囲で対策を講じながら、徐々に活動を再開している団体も増えています。特に孤立しがちな人々に情報や居場所を提供する活動や新型コロナ感染症の影響で困難を抱える人々に対して寄り添う活動は、これまでと同様の支援活動は出来ないとしても、活動を止めてはいけなくと奮闘しています。



今年度の市縁堂では、このように、「新型コロナの影響で孤立しがちな人々への支援活動」をしているNPO・市民活動団体・地域自治連合会等を公募によりピックアップし、その取組活動を紹介すると共に寄付支援も併せて、応援したいと企画しています。

実施に際しては、with コロナ/after コロナの状況下、会場来場型に直接団体から活動内容を聞く機会を設けると共に、特設サイトにて活動紹介動画の配信も行い、多くの方々に、この社会課題解決の取組を伝えられるように開催します。

【募集期間】 2021 年 11 月 18 日(木)～2022 年 1 月 31 日(月)

【目標金額】 600,000 円

【達成額】 77,320 円

※上記金額より京都地域創造基金取扱手数料等を差引いた 69,887 円が参加団体への寄附金(支援金)として、納金になります。

Ⅶ. 連携イベント(公開講座・コンサート)からの寄付贈呈

京都市市民活動総合センターが主催するチャリティイベント(市民公開講座、クリスマス・チャリティ・コンサート)に参加された方々に「市縁堂」参加団体への活動支援として、各会場で寄付を募りました。

【公開講座での寄付受付活動】



①.2021 年 3 月 28 日(日)開催(昨年度開催分を今年度に移行)

【テーマ】「正しさ」の unlearn～誰を支援するのか?～

【登壇者】寮美千子・中村正

【寄 付】 29,100 円(※昨年度のお預かり分)



②.11 月 23 日(祝)開催

【テーマ】「聞いて、観て、触れて、『映画のまち 京都』を楽しむ」

【講 師】太田 米男 氏 一般社団法人京都映画芸術文化研究所

【会 場】ひと・まち交流館京都大会議室

【寄 付】 5,400 円



③.12 月 25 日(土)

【テーマ】市民活動支援「クリスマス・チャリティ・コンサート」

【会 場】ひと・まち交流館京都大会議室

【寄 付】 85,000 円



④.1 月 29 日(土)

【テーマ】「動物園では聞けない 動物のはなし」

【講 師】坂本 英房氏 京都市動物園園長・獣医師

【会 場】ひと・まち交流館京都大会議室

【寄 付】 17,000 円

上記の各イベント会場で集まった寄付総額 136,500 円および「市縁堂 2021」会場内にて、全団体への寄附として¥10,000 を加えた総額 146,500 円を参加 12 団体に均等割に寄付として配分します。

7.【広報活動】

■ チラシ・ポスターの制作



チラシ表面(A4 サイズ)



チラシ裏面(A4 サイズ)



ポスター(B2 サイズ)

■ 配架先と部数

ツール	配架先
チラシ (6,500 部)	・ 参加団体及び実行委員関係等 (1,500 部) ・ 市役所・区役所・公共施設等 (1,500 部) ・ 京都市内 N P O 法人等 (1,000 部) ・ 大学及び関連施設等 (1,000 部) ・ 講座/セミナー/イベントでの配布 (700 部) ・ 地下鉄等公共機関掲示等 (500 部) ・ 企業及び関連機関等 (200 部) ・ ひと・まち交流館内等 (100 部)
ポスター (200 部)	・ 参加団体・大学・連携先等 (50 部) ・ 市役所・各区役所・公共施設等 (50 部) ・ 京都市営地下鉄主要駅への掲示 (31 部) ・ 市内 N P O 法人等 (30 部) ・ ひと・まち交流館内 (30 部) ・ その他 (9 部)

地下鉄ポスター掲載駅例



西大路駅



六地藏駅

■ SNS等による告知 ＜市民活動総合センターFacebook で参加団体紹介＞



＜京都市子ども若者はぐくみ局ウェブサイト：京都はぐくみネットワークメールマガジン＞
号外メールマガジン配信：2021 年 12 月 15 日
送信先：幹事団体・行政区実行委員・世話役など登録者

京都はぐくみネットワーク
幹事団体の皆様
行政区実行委員会世話役の皆様

京都はぐくみネットワークによる「メールマガジン」号外編を配信します！

☆～「特定非営利活動法人きょうとNPOセンター」よりお知らせ～☆

【市縁堂(しえんどう)2021】「京都市市民活動総合センター」主催

「市縁堂」は市内で活動するNPOや市民活動団体の諸活動を広く市民の方々に、知って頂き、活動支援を促すイベントです。会場では団体プレゼンテーションと共に来場者にはブースで個々に活動支援を促します。

【今回のテーマ】コロナ禍に於いて「新型コロナの影響で孤立しがちな人々(子ども・若者・高齢者・小さいお子さんを持つ親御さん等)」を支援しているNPO・市民活動団体・自治会等に集まって頂き、各自の取組をプレゼンテーション等で広く市民の方々に、知って頂きたいと企画しています。詳細は以下特設サイトにてご覧ください。

イベント特設サイトURL：<https://shimisen-kyoto.org/shien-do-2021>

【開催日時】 令和3年12月18日(土) 13:00～16:00

【会場】 「ひと・まち交流館 京都」2階 大会議室
(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1)

【事前申込等】 当日先着順(先着100名)

※会場内での密を避けるために開催時間内であればいつでも入出可。

【参加対象】 どなたでも参加可能

※子ども支援に関心のある方々(個人・団体)であればどなたでも可。

お子様連れでも会場で「子どもたちの遊び広場」にてお子様に遊んで頂けます。

【料金】 無料

【問合せ先】

京都市市民活動総合センター 担当：西 保彦

電 話 075-354-8721

メール nishi@kyoto-npo.org

HPアドレス <http://shimin.hitomachi-kyoto.jp/>

(配信)

京都はぐくみネットワーク事務局

(子ども若者はぐくみ局 はぐくみ創造推進室)

-----■ ■

＜子ども居場所づくり「支援の輪」サポート事業(京都市社会福祉協議会運営)ホームページに掲載＞



社会福祉法人 京都市社会福祉協議会

子どもの居場所づくり
「支援の輪」サポート事業

[サポート事業について](#) [お知らせ](#) [お問い合わせ](#)

[京都の居場所マップ](#) [いってみたい\(居場所の紹介\)](#) [知りたい\(ネットワーク\)](#)
[Report](#)

お知らせ

11月26日 「何かちょっと社会にいいことを」と思っているあなたへ ～ 市縁堂2021～ が開催されます【12/18日開催】

「市縁堂(しえんどう)」とは、「市民がご縁のもと、いち堂につどう会」として、市民の皆さんがNPOや市民活動団体とのコミュニケーションを通して、その活動内容に触れるとともに、それぞれの団体が取り組んでいる“ほっとけない”社会課題についても深く知ることができるイベントです。

本年の市縁堂は、直接団体から活動内容を聞くことができる会場来場型のイベントとして開催します。子どもの遊びの広場もご用意しております。ご関心をお持ちの方はぜひご参加ください。

開催日時：令和3年12月18日(土)
13:00～16:00

開催場所：ひと・まち交流館京都大会議室

参加費：無料(事前申込み不要)

主催：京都市市民活動総合センター

※市縁堂のことを知りたい！参加する団体のことをもっと知りたい！など、詳細は以下のURL、チラシにアクセス、ご確認ください。

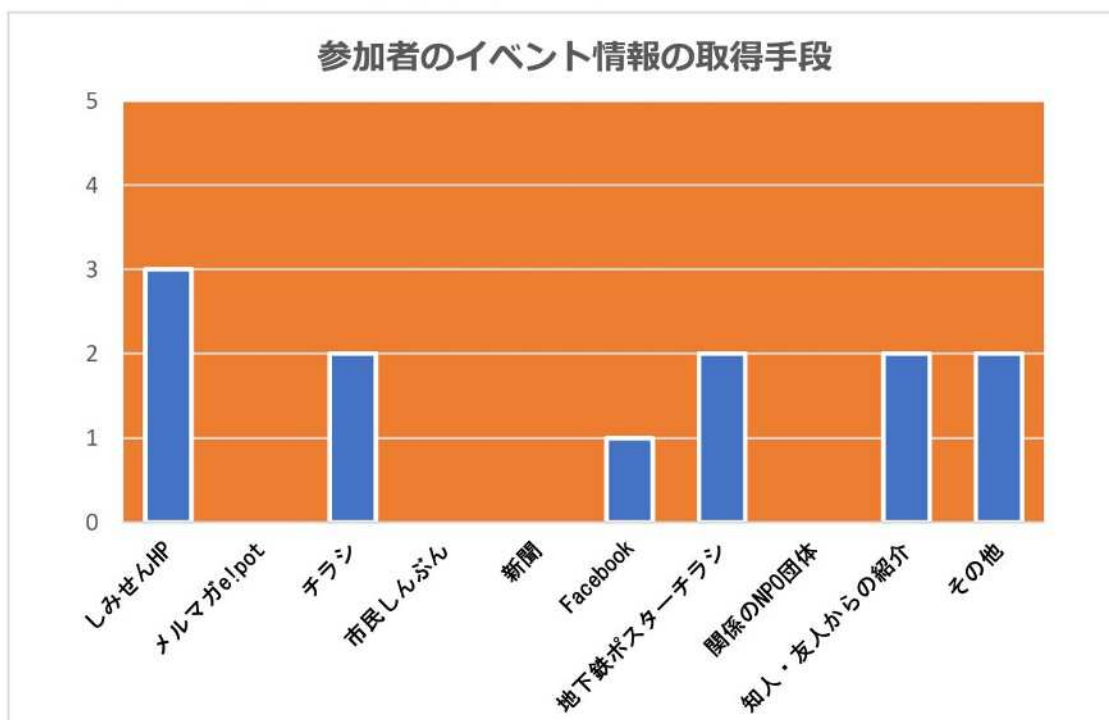
<https://shimisen-kyoto.org/shien-do-2021>(市民活動総合センターホームページ)

市縁堂2021

8.【参加者アンケート集計報告】

実施日：2021年12月18日(土) 回答者数：11名

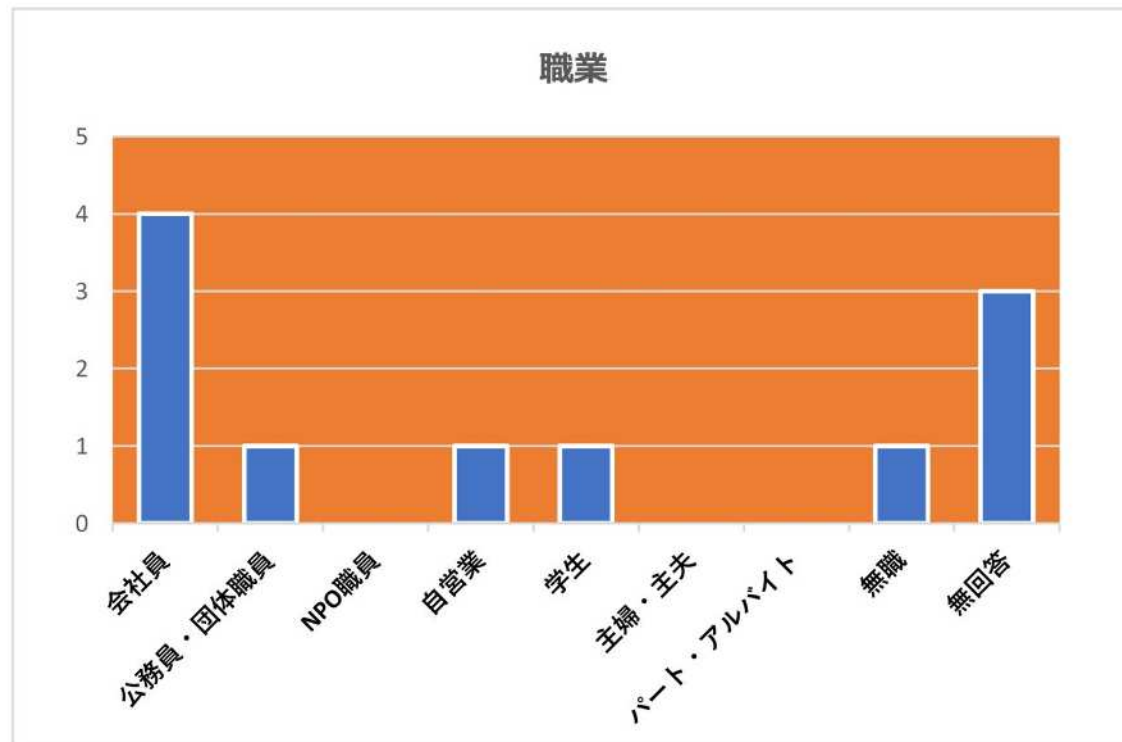
1) このイベントをどこで知りましたか？



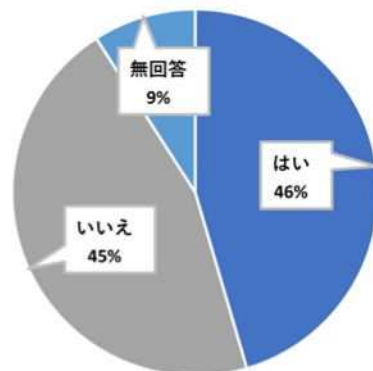
2) 参加者の年代



3) 参加者の職業



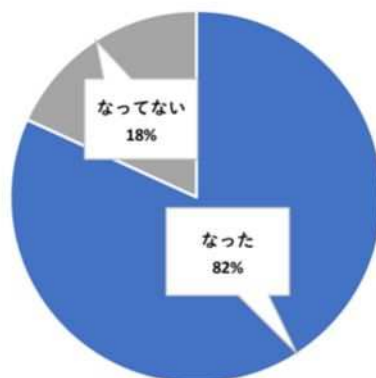
4) NPO・市民活動に関っていますか？



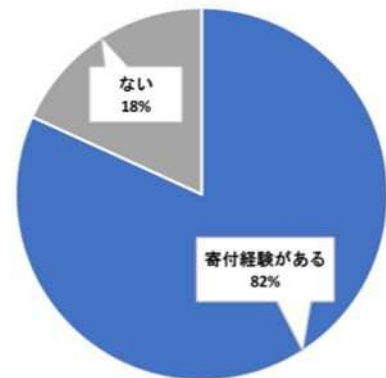
5) このイベントは期待通りでしたか？



6) このイベントは視野を広げる機会となりましたか？



7) 寄付をされたことはありますか？



8) 参加者の感想

- * 様々な活動団体の詳細をお聞きできてよかったです。
- * 話題になっている子ども食堂などの活動が知れたことが良かった。
- * もっと多くの人に知ってもらいたいイベントだと感じた。
- * 社会課題に対して具体的な支援内容・活動で解決をはかられていると思った。
- * コロナ禍での運営は大変難しいと思いますが、市民活動団体は常に最前線で活躍しています。もっとこのような機会を増やしてほしいです。
- * 高齢者の孤立問題を取り扱った情報が今まで見つけれませんでしたでしたが、ここで見つけることができ、大変良かったです。
- * 同日に市縁堂と他のイベントを開催すれば、もっとたくさんの人に来てもらえると思う。

9. 【会計報告】

予算額 ¥ 3 6 9 , 6 0 0 . (昨年度予算額 : ¥ 7 2 2 , 7 0 0 .)

実経費 ¥ 4 8 9 , 2 6 1 . (昨年度実経費 : ¥ 4 6 3 , 1 2 6 .)

差額 △ ¥ 1 1 9 , 6 6 1 .

※昨年度は全オンライン開催にて、会場設備費(機材レンタル費)約 25 万円が不要となった。

今年度は会場設備費未計上のところ、来場型にて実施のため、機材レンタル費が加算となり期首予算よりオーバーとなった。



令和3年度 京都市市民活動総合センター指定管理料に関する収支決算書

【収入の部】		予算合計額	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計	
指定管理料収入(A)		58,520,000	12,216,875	14,780,315	18,134,655	13,388,155	58,520,000	
【支出の部】		予算額	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	計	各費目残額
事業費内訳	諸謝金	1,876,000	36,363	50,004	349,648	656,667	1,092,682	783,318
	通信運搬費	730,000	137,814	90,739	402,153	202,410	833,116	-103,116
	印刷製本費	1,190,000	44,500	59,500	444,273	538,524	1,086,797	103,203
	消耗品費	1,524,000	117,049	225,919	172,722	387,535	903,225	620,775
	消耗什器備品費	50,000	0	0	0	135,000	135,000	-85,000
	図書費	50,000	16,514	11,022	10,557	22,427	60,520	-10,520
	会議費	0	0	0	0	0	0	0
	賃借料	264,000	58,810	81,785	277,477	153,714	571,786	-307,786
	保険料	5,000	2,000	0	0	4,980	6,980	-1,980
	旅費・交通費	87,000	2,163	5,518	5,044	88,064	100,789	-13,789
	研修費	80,000	0	6,818	0	12,700	19,518	60,482
	雑費	60,000	2,125	12,300	4,320	14,166	32,911	27,089
事業費計(＊1)		5,916,000	417,338	543,605	1,666,194	2,216,187	4,843,324	1,072,676
管理費内訳	光熱水費	1,134,000	170,978	281,535	329,790	538,912	1,321,215	-187,215
	修繕費	50,000	0	0	0	0	0	50,000
	管理運営料	1,000,000	250,000	250,000	250,000	250,000	1,000,000	0
管理費計(＊2)		2,184,000	420,978	531,535	579,790	788,912	2,321,215	-137,215
人件費(＊3)		45,100,000	10,628,623	12,010,521	14,333,898	8,917,463	45,890,505	-790,505
消費税(＊4)(10%)		5,320,000	1,146,694	1,308,566	1,657,988	1,192,256	5,305,504	14,496
当期支出合計(＊1～＊4)(B)		58,520,000	12,613,633	14,394,227	18,237,870	13,114,818	58,360,548	159,452
差引合計(A-B)			-396,758	386,088	-103,215	273,337	159,452	